マスターアーカイブ モビルスーツ ヴィクトリーガンダム

MASTER ARCHIVE MOBILESUIT VICTORY GUNDAM



四半世紀の刻を超えてあの白いMSが甦る!

ガンダム



リガ・ミリティアのマルチブルMS「Vガンダム」の 運用や構造およびシステムを徹底解析する研究書籍!

ISBN978-4-7973-9370-5 C0076 ¥2700E

定価 本体2,700円 +税

7784797393705

192007602700

O利達・サンライズ

SB Creative



リガ・ミリティアの象徴たるべく造られた新時代の"ガンダム"――。

Graphic モビルスーツ解説書シリーズ既刊



■マスターアーカイブ モビルスーツ RGM-79 GM ISBN978-4-7973-5904-窓組 本体2,200円+税



■マスケーアーカイブ モビルスーツ RX 7B ガンダ ISBN978-4-7973-8618-1 質価 本体2/200円+税



■マスケーアーカイブ モビルスーツ MSZ006 Zが: ISBN 978-4-7973-7095-6 定価 本体2 400円+税



■マスターアーカイブ グム モビルスーツ RX-78GP01 ISBN978-4-7973-7367 7 定価 本体2,400円+税



■マスターアーカイブ モビリスーツ RX-79 GM voi-2 SBN978-4-7973-7123-9 定価 本体2.600円+税



■マスターアーカイブ モビルスーツ MS-06 ザグI ISBN978-4-7973-8800-8 対価 本体2 700円+根

MASTER ARCHIVE MOBILESUIT VICTORY GUNDAM



ISBN978-4-7973-9370-5

C0076 ¥2700E

定価 本体2,700円 +税

97847973937

C製用・サンライズ

SB Creative



MASTER ARCHIVE MOBILESUIT VICTORY GUNDAM





G新疆・サンライズ



MASTER ARCHIVE MOBILESUIT VICTORY GUNDAM



CONTENTS

006 ヴィクトリーガンダム開発史 Vガンダム

023 Vガンダムの構造とシステム

032 コア・ファイター

048 Vカンダム各部解説

078 〈Vガンダムのオプション〉 武装 Vダッシュ・ガンダム コア・ブースター

NRR Vガンダム・バリエーション

102 ボスト・ヴィクトリー セカンドV キャノン・バック ヴィクトリー2 HISTORY OF VICTORY GUNDAM DEVELOPMENT VICTORY HEXA STRUCTURE AND SYSTEM OF VICTORY GUNDAM CORE FIGHTER VICTORY GUNDAM DETAILS OPTIONS WEAPONS V-DASH GUNDAM CORE BOOSTER V GUNDAM VARIATIONS POST VICTORY SECONO V CANON PACKM **VICTORY TWO**









VICTORY GUNDAN DEVELOPMENT

Vガンダム開発史

U.C.0150年代に勃発したいわゆる「ザンスカール成す」 一国家「ザンスカール帝コ」が、地球連邦に対して起こした。 一場に、「大阪ネストワークに満て来する福原和原丁リカ・ミリテ

们に対かってい。本学語でもも、大・・の人物が、リカ・ミリディアともも、 お客の適合が力のおびできなったことでも、またまに記された道ができるか 水金では、よの過去を支えた素が同じによる自まの表もビルス・ツ(ロエ

学術館に至るまで、解説を図みるものでの



【時代背景】

UC0123年のこと、ロナ家一党の私兵集団、「クロスボーン・バンガード」 が新サイド4 / 旧サイド5に作られたフロンティアサイドを制圧、「コスモ・バビ ロニア | の建国を宣言した。この出来事をきっかけに巻き起こった、いわゆる 「コスモ・バビロニア建国戦争」は、レジスタンス勢力による頑強な抵抗とロナ 家の内部分裂によりやがて収束へと向かったが、それでも地球連邦政府の弱 体化を強く印象付ける結果となった。これ以降、UCO130年代には木屋圏コ ミュニティが「木星帝国(ジュピターエンバイア)」を名乗り地球態便攻を企てる など、地球連邦に対する大規模な反乱が立て続けに発生。UCO140年代に 入る頃には、コロニー主義が台頭し、各サイドにおいて目治権確立運動が再 燃し始めることとなった。

そうした不穏な情勢下で、一部のサイドにおいて、スペースコロニー政庁 が立ち上がることで、コロニー国家とも云うべき自治組織が成立。中央政 磨から離れた独自の「国家運営」を開始することになる。 さらに小規模のコロ 二一国家司士が経済格差や貿易不均衡を巡り対立するようになると、やがて 軍事衝突へと発展。本来であれば治安を維持すべき、地球連邦軍傘下のコロ 二一駐留修施すら、正規の指揮系統から離れ各コロニー国家の国軍に成り果 て、戦乱を領めるどころか激化させていった。俗に云う「宇宙戦国時代」の到 来である。サイド2の「アメリア」コロニーにおいて、「ザンスカール帝国」が成 立し得た背景には、こうした地球圏全体の治安無化と中央政府の胴体化があっ たことを覚えておくべきであろう。

U.C.0148年のこと、アメリアにて「ガチサ」と呼ばれる政治結社が結成さ れた。代表を務めたのは、木星帰りの男、フォンセーカガチ。ガチ党は独立の 税運が高まっていた世相を巧みに利用し、政治的腐敗の排除と地球連邦から の脱退、社会システムの刷新を訴えることで支持を集め、瞬く間にアメリア政 庁議会の第三勢力へと合い込むことになる。彼らは、犯罪者に対する公開処 刑の導入を主張するなど過激な思想を有していたが、長らく腐敗に能いでい たアメリア市民は、この強硬姿勢をこそ共烈に歓迎した。翌年になると、実際 にガチ党は、簡収険事件の省配グループをギロチンによって断頭刑に処すと いうパフォーマンスを放行、多くの市民を発狂させた。むろん野蛮な公開処刑 という手段に反発する場合たちもいたが、まるで革命部のフランスの如き様 和を望し始めたアメリアにおいては、その恵は忘まりにも小さかった。かくして ガチ党は大衆の限動に成功し、一挙に支持を拡大させていったのである。

また、フォンセ・カガチはガチ外の結婚に先立って、UCO140年代初頭にサ イド1の「アルバニアン」コロニーで発足していた。 マリア・ピァ・アーモニアを教 祖とする新興宗教グループに接触。母系社会への転換を訴える宗教運動、い わゆる「マリア主義」を後援することで、その信書たちを目降営の支持層に組



A軍稅略研究所(Strategic Naval Research

の囲名の研究所に由来するものと思われている。他に 地球便次作戦を取行するため、特殊部隊「イエロージャ

こうして政治と宗教の范面で支持基盤を関めていったガ チ党は、アメリアの政権を探ると、当然に存在していたサ ナリス(※)のサイド2支部を接収、機動兵器開発能力を得 て、色谱に対象化の調を辿ることとなる。そして、地味道 お果のサイド2時 短期間 を取り込み 「ベスパ (準値研究と 宇宙偵察部隊 Ballistic Equipment & Spece Patrol Armory) | (※)と名付けた独自の武装組織を設立。軍事的 な過速を設た金石は、地球地球が公の地立大団は大幅域に U.C.D.149年7月、ザンスカール帝国の韓国を宣言するこ ととなる。その際、サイド1から招いたマリア・ピッ・アーモニ アを国家元首たる女王と定め、表向きはマリア主義を国是 とする宗教団実としての形式を採ったが、政治と軍事の学様 をガチ党の党首、フォンセ カガチが振っていたことは書うま アもない、D/B サウスカール帝国は主衛が堪を続け、「マ ケドニアノコロニーを始めとする「周辺国」を事実上の民国と して、帝国の展園に組み込み始めたのだった。

だが、以上のようなサイドで200回変を表でし、 地球場所 銀回の他が終了かた。かつてサイド3にて戻ったドラインへ 国の地立を持てか、終系的な場合が1世代テラルたとが、人 新の中数を発圧3歳いやった「一年表明」に繋むりたことのが。 歌から、あるい地域までできるいた事が1世紀が1世紀の始 東か、別にも向にセー央を開はサンスカール市線の動きを 新型した。そう、設定と申請できたり開送りが、またか手得 野田砂にでしていないからないまで無と地方だってきる。

一方で、サイドにおける万分の動物を発験制化で、3 またが各本的を比し、0 10 3103で作業性に、類似た 地球運用設備に対するカワンターとして全じた医院ネット フーター・等かが、ガラ森を形式の構造と認は機合さ がだいこの13年間は、「特別問題型として具体化・現象 の形のアルーカントをかけに認め、他のかととなる。そ して、UC 0 1 47年に万分学がアメリアの政策を匿ると、翌 年ほぼ「レスージャング (物質単常型)」として、実物扱う 単位を出版制度としたがたよいのかよ

【V計画前史】

リガミリティアとは、一般にザンスカール帝国に対する抵

抗組脈として語られることが多い。しかし、実際には単一の 組織ではなく、民間ネットワークによる「抵抗運動の総体」で あったと解釈する方が提挙に阻しているだろう。一応は、ジ ン・ジャハナムという指導者が存在していたが、ヒンドゥー語で 「無財に終末ら悪魔」を育味する名が示す通り、これは傷名 に過ぎず、多くの形武者が存在した。また、形武者どころか 複数人のジン・ジャハナムが同時期に存在していたとも、そ もそも効果例よではなく影道部に関す者たち全体を示すも のとも思われており 不能かな古が多い。それがけ ロガミ リティアとは謎に包まれた存在であり、彼らによるMS開発 計画を解き明かすことは困難を得める。本書の執筆にあたっ ては、当時の地球連邦軍が細算した極わずかな公的資料と リガ・ミリティア関係者の証言を悪に、出来得る限り事実に基 ついた記述となるよう心がけているが、それでも詳細な部 分に関してはまだに不明な占が残されていることもあらかは め記しておこう。

さて、リガミリティアによるMSR機能制施、港等「グイク レー計画(以下、V計画)」が動き始めたのは、U C.O 1 48 年のこととさけている。だが、これに先立つことも目の U.C.O 1 4 年には、他にリガミリティアの中枢となる時間 総面のひこか。任期間が「セントラック下が高学のテクト テクム工場を命下に収め、独自のMSR機形に番手していたと も置いれている。この他をがしたO 1 48年始点で必要す が開上とて限度されたというの、どから解析のにある。

隔距離性能を接続たのは、「行動」の原象で知られなが、 ニング、その下に三かっを之が、してNPマンリル、オー ティスアーキンズといった元サナリイの技術者が強い、系 が理動のエフ港とは各外的の設計を認効したようだ。つまり、 (7月間) 漫とは、リンボ・ジャンマーションを抽 は、以下に一致の原本性としてはサナル・祭の「フォーニュラギ曲 (UTF、FH 世) 原の映画と自然の子のこのだ。 (UV プリー リンドルにことを考えては、リンボ・ジャンデーを 導入していたことを考えては、リンボ・ジャンデーを かるにあたっては、まず前少としてサヤビルの影響を発展的に かるにあたっては、まず前少としてサアレーの歴史を解り返っ などの意からたっては、まず前少としてサアレーの歴史を解り返っ などの意からたっても、まず前少としてサアレーの歴史を解り返っ などの意からたごう。

さて、サナリィの元を辿っていけば、サイド1の建設に参加した宇宙島建設企業連合体に行き着く。そんな古参企業 が軍事に関わり始めたのは、地球選邦軍の設立に際して中



現的 「C株子の大事を構入され、事質年限の会社となって、一くである。その思、知場をき、知識を持ち、 なって、一くである。その思、知場をき、知識を持ち、 所へと改称 「国際の情に関連した力を見から、 事方面の信用機能として、女世代の機能や自動制について の選定を表別に対して選手することを主即がよさらいもう の設定を表す。実施とは国際がありのというでは悪格 をお思ふ。 特に一年報を自信の返還無いは、コロニー機能 をお思ふ。 特に一年報を自信の返還無いは、コロニー機能 でおり、「一年報を自信の返還無いは、コロニー機能 でおり、「一年報を自信の返還無いは、コロニー機能 でおり、「一年報を自信の必要というという」では、不一スプライ の回返②率を上げるが、の場合を持ちなど、最も関係においても大きな解しをという。一方、UCOGBTRU 図の通りが発生をとしている。一方、UCOGBTRU 図の通りが明明においては、単のの音機的(ディケー)、

中立を質く姿勢を表明。 19時、同間等は場入的階級のため、 ニュータイプ研究を始めたする各種側に対して単位を求め 気限ら込み工作を行っていたが、実際機能研究所はは延開 発に直接的関与をしておらず、また独立性の高いコロニー 公社と使い。場びアンセを持っていたがゆえに、「腸か給」を第 またアルストを記せい。場合アードはアルマ・よった。

こうした姿勢に変化が生じたのは、U C 0093年の第二次 ネオ・ジオン戦争を機に行われた地球連邦軍の組織再編に終 しててある。同研究所は「海軍戦略研究所」へと名を改め、 これを現として機動兵器開発分野に参入を果たしたのだ。

第二次ネオシオン戦争の終結によって、大規模反乱の券 が満えたと考えられていた当時、罪は戦時体制から平時体 粉への移行を求められていた。疑的に含えば、軍事費の抑 制が強く要求されるようになったということである。かくし FREITHAVENT

て、U.C.0080年代半ば以降、ひたすらに多機能高性能を 皆とした新機種開発が繰り返されてきた機動兵器分割にお いても、経費圧縮を求める議会からのブレッシャーが強まり かめるエトになる。

議所、認知機能であるサナリ-としては、こうした。常和に 被動に反応せてるを得ない、サナリ・は、軍事機の削減 力向では今の管理をきとめることになる。だが、機能角型が 相に再合に把手を続いていた業界様大手、アナリームエエリ たこのよ社(以下、日本日が一会にはおりませる。最大な研究 発を記せいたサイコアレームは様が単端の表を目には当っ は、とは一般を認定したでしていないと関すにあるが、こっ 一部の場合を指していないと関すにあるが、こっ 一部の場合を対していている。 したは従下で、サイルは無料に高がの相同しても非性 す。東の中間にも外容な人機能を受しているのもつき。 す。東の中間にも外容な人機能を受しているが、のから できれば、組織していつかと関かの姿をを認めている時 でやいの流のを疑うというのが、サナレーのおうてをかた のだろう。

でラレアかが近けれる場合物を出来即った。サナル
の用するたちは、手始めに小型機能を呼の明れます。
1 いらのな味素が分極が小さいリンスルーター・バック
の開発に変功すると、これをが力したの専門を主じれマート
の開発に変功すると、これをが力したの専門を主じれてあった。
サナレくしては、一気に主かが5の使用を目前でようなこと
はてき、特殊機関の人間構造をしいコニックを襲撃は、
無限 (日本)の耳側を向い、夢生し作を関係と、が手 規模 (日本)の耳側を向い、夢生し作を関係と、が手 規模 (日本)の耳側を向い、夢生し作を関係となる。
単型に多っつ配件を加えた。「おした」を 単型に、シン番用側からの特別を関係となる。(日本) 単型に多っつ配件を選を到とんだ! 日本のい事ではら、 ある。これは表して男性のとかないがに見るた。アナルに ある。これは表して男性のとかないがに見るた。アナルと によりらるのと、のかに、たまりのであった。

【小型MSの台頭】

D-50C (ロト)の成功によって自信を深めたサナリィは、 U C.0102年、地球連邦政府に対して、「小型MS開発にあ たっての提言」と願したレポートを提出している。

その中でサナリィは、従来のMS開発がより高性能で、よ り名機能にという方向性での発展を追求するあまり、大型 什の一途を辿っており進化の等小路に追いやられつつある。 と指導。当初は18m級であったMSが、U.C.0080年代後 半から20mを超える機体が増え始め、近年では30mlC迫 る機体も珍しくないとのデータを示した。機体が大型化す れば、それだけ格納スペースを広く確保する必要があるが、 一方で母艦となる艦艇のペイロードは有限である。 艦艇の 更新サイクルがMSに比べて長く、50年終末の長期運用さ えもが珍しくない点を考えれば、母艦側の対応は後手に回 ることになり、整備ペッド等のメンテナンス設備を改修する にしても英大な費用が障害となるし、艦艇の最大積載量が 増えるわけでもない。このままのペースで大型化が続けば、 必ずや運用面での眼界に達する。これがサナリィが指摘した 「進化の袋小路」である。そして限界に近づいた大型化のし わ寄せは、当然のことながら運用側が被ることになる。提 言書に添付された参考資料では、射出用カタバルトの規格 が合わす、通常の手順では発艦できない大型機をはじめ、 現実問題としてすでに生じているトラブルの実例が多数掲載 されており、さながら整備クルーによる不平不満リストといっ た様相であった。

サナリィは、仮に様体サイズを20%程度小型化L。16m 級のMSを標準機として採用した場合の適用効率をシミュ レーションし、作業スペースの拡大に伴う整備効率の向上 から算出される再出撃に要する時間の短縮率など、細かな データを示してみせた。このシミュレーションにおいては別 パターンとして、解載MSの定数が6機とされるクラップ級 巡洋艦を倒に、最大B機の小型MSを搭載するプランなど も、合わせて提示されている。この場合、3機編成による2 個小弦を基本とする運用法から、4機構成2個小器ないし、2 機組成4個小除へと変更する戦術プランなども併記。さらに は、巡洋艦クラスの戦闘艦艇より規模の小さな駆逐艦クラ スの膨脹へのMS搭載室や、小型輸送艇によるMS運用の 可能性も指摘。大規模戦闘が減少し、テロ対策を主題とし たパトロールなど、より小規模な作戦能力に比重が傾くであ ろう平時体制における新たなMS運用法までを描き出してみ せた。MSの小型化は、それほどの変革をもたらしうると主 張したのである。

また、推力重力比の改善に伴う機動性の向上など、小型 化がもたらしうる性能量でのメリットについても当然のこと ながら海峡された。その中では、軽量化によって生じるであ そうを機断したる空後中をデリルでも同る、後げ一段

化することになるビーム・シールドの標準搭載についての可

能性が完成されるなど、処理的に編んが記述を教唆される。 だが、得よりも大さく影響されたのは、小型化による製 透像の圧縮粉度できり、それに伴う形列表別の制度であった。 本格的なコロニー解度が含まれば、鋼体需要が高まっを見 造コストの機能であり、「金幣の別」であるところのMSの製 造コストの機能であるがあると、いかにも認能する性が、しかに 別価に優しいのかを切っと思いた。その際、例如した程度を コロニー解析によるもかに開放が記されていた。点は、いか かいたものコロニー公社との関係が深いサナレイらしいエピソー ト学書えよう。

以上のように、サナリの開業は、軍事事間所にいう場所 の思慮と、平時体制への移行という事上機能の方法、でち に追撃性変がに減り度興業単の理念を能び出途のすべた。 合残していた。それでも、AEよがかっての影響力を持っていた。 た場合、この機関が入品されることはなかったはすだ。だ が、第二次メネジオン機能とも形式さればしなりの日中の動 北を軽く、AEはの関係にあったにズトを閉めの推合物を襲力 は機能に低すしていた。 起席のところ、海部はサナリへの連 番利該手のよるの形で受け入れる心態を下している。

一次のた上側は、置線の影がやを見せた。120 C105 年4月、小規模な反地接通邦系のテロ組織のひとつに、全 系名の18のミノフスキークラフト搭乗収配が出る(金)を他 配置に対するなどして角機を選出、多種能大型が400の 他型が200円であることで、需要を開始しようと試めた のである。しかし、この目前見は実施に終わった。ほどなる、 地球非邦等の特殊部所によりが終始続したテロ組織は傾在 では、最近は極めて短期間の内に収制してしまったのであ る、角の大型が作材所についても、アデレード市所に適能 されたビールパリアーに関まれて関係するといろかっけない 無等を選びまか、よりを事業がよったりを表すこともな かった。なお、地撃連邦側に直揮されたこの様体は、ある 程程の分野が地域を持つばっなれば、ひと前でACを対する を工作が扱いが出るがあるがは、 のことが多様がよびをわかった。ないことが目標をはない を工作が扱いが出るがあるがは、 のことが多様がよびの他のであるために影響がまれている。 るが、公式の報告間にはあくまでも「製造元不明」との必応 されている。今とあっては超越など出す情やもいが、AFEと 実上機能の他で、例でから物学的場合はたいと考えるの字要 当であるう。そもそもAFEは、反物維維熱機能であるとこ ろのエクールエリストはることで、勢力を拡大させても下止。 後も、シャアアズナブルがいる確定ネギ・ジオンや、その終 契勢力に「高温を使うし続けてきた。解するがにして するなどは「原化力かでいた企業がに、過度を感じていた なススを受けますとなってとての機能場が、も時に、影響を安心して では何まるが方法によっていたの意味に、過度を感じていた では何まるが方法にサンセンにが考えてから、この影響、 プロ機能に対する試作機の場合に用を概る見返りに、AFE にが50の分型に固定を育ませたのだという場が傾かれたの 。例ざとというを回じるいる。

しかし、またもAE社の原域は外れることになる。地球連 終期的には、決定されたはすのい場所が開発に同様的すぎ み名土行立発発を開業するではから、サナリへの構製、 高額角部がを拡大させることで対抗馬とする等か浮上した のだ。かとして地域維持策は、正式に次利。JMMの計算が 月な40moc Totoled Mobile Sut a TMTSJにおいて、 AE社とサナリィを磁争似作させることを決定。これに対して サナリは有計画なるプロシェクルを見起させ、決性で機のフ ンセフトデタルとなるが単級の設定に乗り上のである。そしてUCO111年、サナリな評析的成果たる弦作機。 FBOIにて速度域に破み、見事にAET製のMSAO120 に関係に影響と対象を対象となったのであった。

(F計画機からV計画へ)

FBDは、参加を18m以下に認めたコンパウト技術制に、出力3.18Dの必の が思りまえレーターを加えた、間めでシンプがも残れたるる。設定を結立た MSAの12Dが、設定加力3.04DのWが対か。エネルギーCAPが開発で用した たがガブーストを使用することで、影水6.BDのに水まで出力を引き上げること いならにに思える。しかしまから、主を設計解を削めたアルマイヤウタウンパー インー挿上が開かた「MSの原点回画」という思想からずれば、無常の設計でも もあった。肥大れに出対でなたMSがから解析を報告を報告が上げるである。 作は出対を現代を入りてたMSがから解析を報告を報告が上げるである。 作は出対を関いて「MSの原点回画」という思想からずは、本体の影響コストを する。という証がが原刊されていたのだ。これによりまかの影響コストを 等る。という証がが原刊されていたのだ。これにより、本体の影響コストを 管局なものとし、総合的な问题学にあるを明まかによる特別の意見と作っ で、まつけんが同じれていたのだ。これにより、本体の影響コストを 管局なものとし、総合的な问题学の書を記しようというのである。FDOによっ で、サブレイが同じたコンセプトは、原本算を抑制したい策上展的のも変全を に見えた。

以後、認定計算解につて、サブリイ等の外には、ACH製の外にと認可述を 対力な高限性となっていった。FOIのは実験を入る。全質をはご高等すで使 用が多く、そのままの所で重要されることはなかったが、合きの制度が製造 に実施を含む試験薬用を建て、新た状態に受サブリーもたらした。また、FOO はなっな節様や影響機の研究性をとなり、小型が4のの存を実施型ともものと することに、中部変を説明MS、F70(キャングナダルのが終・サナリーが大 類性無差限度を持たなかった。一もして、利益を確認したい体とが定期が出 、一一本数を行った。一ため、一部の仕様変更を行い下げ、位キャングとして、 AC社の手でに特性度が引ることにはなったが、一定の成功を収めている。こ の後も、サブリーは次をく当的性質要を形成させていった。そうしたの情報の 認が力、リブルーは次をく当的性質要を形成させていった。そうしたの情報の 記述が、リブルーはアッドの言葉に示け、と述りませな。 を認が力、リブルーはアッドの言葉に示け、と述りませない。 を認が力、リブルーはアッドの言葉に示け、と述りませない。 は、「対していった」と対し、では、実際にどのような動 類が知るではなったが分か。

リガミリティアの耐発師にとっての仮想搬は、いわずもがなザンスカール布 図の直染問題(ベスリである、サブリルのサイドなど勤を獲収することで、そ の技術的適度を受け扱いでいたベスパは、当体、地球連邦が配慮してい たRGM 119(ジェムズガン)やRGM 122(ジャベリン)を上辺る高性整形型 MSを簡別(J.O.J.Sa.)た、そんな移力に対抗するからには、少なくそ十両水金属 MSを簡別(J.O.J.Sa.)た、そんな移力に対抗するからには、少なくそ十両水金

会とフフェークラフト級を試けないな 地震が高水準高速のメーケー部が対した数米特色管に よると、通常でガルデロ機能の大気が気は、多気の8m. が成かり物でビーケールにピールでブリルとはっ 危機率的延振機の並が、図並が指す特を近き、大小の を受けて次の日ナリルを発電、さらいの主意が終生され よる効率にロケルは軽を備えるという事業が出せる の 服文金剛業を見むり前をごはている。このよう の 服文金剛業を見むり前をごはている。このよう に重要なの様々ありながら、よフフスキークラファ、コートを指揮することで、参打で民かるを操作行を呼 終亡はたいりのだから、一介の子の純果花室に開発な だできょうなから

*EUS/SDITES

予解以記してプラコン及集を付け替えて、最終を返送 予解以記してプラコン及策を付け替えて、最終を返送 存在しているものだが、予約の第2ションリントラフが成立 成婚社なではケード・ボインやの前指示能差 ロップンコン 月を後端からかけた金倉庫内の開始は、ジグコリティアが 製造りまった。この思想は、ジグコリティアが 第200年に対しているこの思想は、ジグコリティアが 第300年に対しているこの思想は、ジグコリティアが 第301年にドボイントが機体を指に関わっているほとが (権効のサード・ボイントが機体を指に関わっているほとか 権効のサード・ボイントが機体を指に関わっているほとか 権効のサード・ボイントが機体を指に関わっているほとか (権効のサード・ボイントが機体を指に関わっているほとか



以上の性能を持ち、なおかつ小組機の集合体に過ぎないリ ガミリティアでも製造、運用が可能な柔軟性を併せ持つ必 要がある。そこで考案されたのが「マルチブルMS」と呼ばれ る概念であった。

マルテブルAGを最も翻述。説明するならば、「最前分離 機能を有する小性MB」となるだろう。投稿末を含めた機体 の中級「コア・フィケー」と検に、上半身 [トップルム]、・ 半身 「ボルムリム」という3種のモジュールによって構成さ 、世期中を含かて振り、分類合体を可能とする。この点 だけまえれば、かってAE-Dが開ルたMS2-010(2237) ダムンにで表される分類素単可能型が1MSに対し、ただし、 MS2-010/世末がに、単のMS2-Uで表することを前提 としていたのより、1単のMS2-Uで表することを前提 としていたのより、1単のMS2-Uで表することを前提 としていたのより、1単のMS2-Uで表現をよるというに 知明する。あるいはトップリムとファファイターをトッキング させた「ドップファイケー」用形で地域を施設するといた第 用途を目前にしていたのきる。

そのためにも簡別解は、サナリイ製のF計画機の中でも、 F9DIIY(クラスター・ガンダム)やF97(クロスボーン・ガン ダム)といったコア・ファイター採用機を参考として、設計作業を進めていたと伝えられている。

しかし、単純年報であったのかと言えば、深してそうで はない。FSOMIYやF37のコアファイターは、ポリソンタル インザイディ方式を採り、接収系法やジェネレーターに加 えて、MS形態制にメインスラスターとなる推進系統を構え ていたが、その総計を占ちに発展させることで、類形ユニッ トを構成するセンザー競技でをも集初しようと試みたので ある。

で作され、トップリム温報報等4点とするフェルンラタ・ トラーム、からし、以近さず開発が19世級業品としての 役割だけに重点を置いた返かを採用、機能を根定すること で国エストルを認り、他 10点を使い場合とは暴力ない。後でも、 オプルコメドルの一般の上に、成めらという時実を担いたの である。 第二、他に死後する初の原義型でリップルがあ、 10点13日の4ではクリーフでは、高モジュールの主義知は 一般しておきず、 解析中の単いすかない。 教習されている。このあたりを従来のTMSと見なる会と意 教習されている。このあたりを従来のTMSと見なる会と意 のTMSを明確に分けたのは、設計思想や適用法だけでは ない。「ミノフスキー・フライト・システム」を実装することで、 大気面内での飛行性能を新たな次元に引き上げようとしたこ とも特徴に値する。

ミノフスキー フライト・システムとは、ミノフスキー・クラフ トの一種とも呼べる飛行システムのことだ。しかし、従来型 のミノフスキー・クラフトがミノフスキー粒子の腕を静能を有 していたのに対し、ミノフスキー・フライトではこれを行わな い。周辺環境に存在するミノフスキー粒子を再構築し、微 弱なミノフスキー・フィールドを発生させることで、 糖体を浮 行させようというのである。もちろん設布機能がないのであ れば、母艦などの支援が必須となるが、一年戦争以降、ミ プラスキー粒子の影像的数を軽振はセオリーとして組み込 まれており、戦場であれば---それを敵布したのが樹味方 のいすれであれ――戦闘津度が維持されているのが常で あった。あたりまえに存在するのであれば、それを利用しな い手はない。このような発想によりミノフスキー粒子設布機 能を用ったことで、結果的にミノフスキー・フライト・システム はサイズの圧縮に成功、全長9m未満のコア・ファイターに も実装が可能となったのだ。

もちろん、15メートル級の小型機に変形分離機構を導入 しつつ、さらに重力下での連用に備えてミノフスキー・フラ イト・システムの宝装を目指すという仕様は、機体構造の推 雑化を招き、開発に要する期間やトータルとしての製造コス トを増大させかねないものであった。しかし、リガミリティ ア特有の組織的問題点がこのような茨の道を開発陣に選択 させたようだ。地球連邦軍内のシンパやAE社を始めとする 大手軍事メーカーのバックアップがあったにせよ、民間組御 の集合体に過ぎないリガミリティアにとって、育成に時間の かかるMSパイロットの存在は極めて管理である。そのため 少しでもパイロットの生存性を高めるために、脱出システム を兼ねたコア・ファイター機構の導入が是とされたというの だ。また、機体を三分割して名モジュールを小型化すること で、比較的規模の小さな工場でも製造を可能とするという 狙いもあったという。 実際、LM312V04(ヴィクトリー)は、 ヨーロッパ地区に点在する地下工場にてモジュール単位で 製造されており、この特殊な設計が一定の成果を挙げたこ とが確認されている。■

LM312V04 LM312V04(ヴィクトリー)

VICTORY GUNDAM

















(ヴィケルリー)タイプは新しい場合の式であるとノフスキー フライトを搭載し、システム会体と自 点所の直直を検明する場合し、15mm/Vにつかられた単独の直目記分と機能性を示じ入れた。

■LM312VQ4(ヴィクトリー)

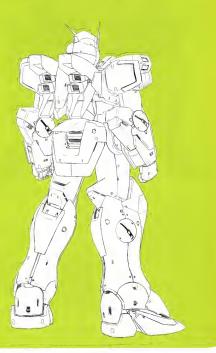
V計画の初期接限において、参可更の通常性MSが分流 してLM111EQ2(ガンイー分) (別時間期が対象地区れ 施・力で本をであるアルデノがMSの開発性質1人 で超かられた。ただし、その概要値は、月間のセントンカ セフ市等外から地域のコーロップ地域で入まをでしたから をサモッで、テクチデウム工場は手度であり、LM11EQ2 の対策型を上離せが設定でれては、影響の登行物が立た 場が出ることは明日であった。また、マルデブルMSの生業 チングの地域上に関すれる時間であったことも、この「引っ 域しを構御したようだ、ヨーロップ(地域には、目間終決め はした場所したようだ、ヨーロップ(地域には、目間終決め をしたしたが、日本の「引きした」をした そうした影響を動していた「単微が点面によどれ、 そうした影響を動していた「単常が点面によどれ、 そうした影響を動していた「単作の交換と影響を使 作していたのである。したかって、近年後の製造と需要を 作りていたのである。したかって、近年後の製造と需要を にはメリットが大きかったのだ。かくして、オイニュングを筆 頭とする開発陣の主要メンバーは月面を離れ、密かに地球 へと落下したのである。

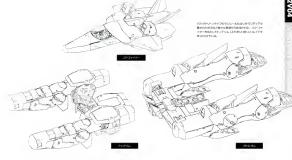
さて、手続の新設マルナブルASであるが、LM3 I 2V04 との製式番号からも添る湯り (包式番号の強御総号 [LM] はリガミリテク酸であることを簡単し、次の3所の数字は [モジュール数・ジェネレーター数・メインスラスターシ ステム数を示す)、分離機を有する3モジコール機、ジェ ストルーター1基、メインスラスターシステム2A機という構 成が期間され、では、その外現を詳していころ。

ます。ここでいう3モジュールとは、中核を成すコア・ファ イター、上半身のトップリム、下半身のボトムリムのこと を示す。これらのモジュールは、それぞれが優別に運用す ることが可能とされたが、注意したいのはメインジェネレー

LM312V04 (ヴィクトリー)

VICTORY GUNDAM





ターが1条続しかないという点だ。主義となる合計出力 4.780kwのジェネレーターは、コア・ファイターに据えられ ていたのである。一方、トップ・リムとボトム・リムは、単独 運用を行う場合、コア ファイター側からのマイクロ波電力 伝送と内蔵パッテリー (エネルギーCAP)に知る紛計とされ た。また、メインスラスター・システムは、コア・ファイターと ボトム・リムの計2系統であり、トップ・リムには備えられてい ない。そのため、トップ・リム単独での機動性は限定的であ り、戦闘機動はほぼ不可能であった。したがって、実際の 海用をとしてもトップ・リムは、コア・ファイターとドッキングレ た「トップ・ファイター」形態で用いられることがほとんどであ り、ボトハリハのように単舛運用されることは様であったよ うである。

このほかの特徴としては、サナリィ製のF計画機で試みら れた「ミッション・パック」の設計思携が促け縁がれていた点 が挙げられる。LM312V04の機体各所には、ハードポイ ントが設けられており、多彩なオプション兵装を増設できる よう設計されていたのだ。こうした点からも、単一機種を多 目的で使用したい小組織ならではの実債が見え隠れしてい る。このハードボイントは、エネルギー供給系統などが国際 規格に則って設計されたため、後述する独自兵策以外にも、

地球連邦軍で制式採用されている各種兵体類が利用できた 4550

かくして最終的な仕様が確定すると、いくつかの試作工 程を経て、実機の建造に着手。さらにリガミリティアは同時 期に、テストパイロットのマーベット・フィンガーハットを招集 し、試験運用部隊「カミオン隊」の編成を急いだ。なぜなら、 本機の名モジュールは、それぞれ別側の程度工場で製造さ れていたため、運用テストを行おうにも、まずはすべての モジュールを回収して回らねばならなかったのだ。そして、 この工程の日中にベスパのイエロージャケットに捕捉され、 LM312V04(ヴィクトリー)は、なし前し的に军御投入され ることになるのだが、それはまた別の話であるう。

ちなみに本機のベットネームであるが、こくシンブルに勝 利を願って(ヴィクトリー)と命名されたものの、カミオン隊 で運用されるうちに反抗の象徴として「ガンダム」の名で呼 はれるようになり、やがて「ヴィクトリー・ガンダム」ないし「V ガンダム」といった愛称が定着していった。リガ・ミリティア 自体が正規の軍事組織でない以上、何を以って正式名称と すべきかは無見が分かれるところであるが、本機について 複数の名称が入り乱れているのは、以上のような経緯から である。

V GUNDAM HEXA













(ヘキサ)は当初通信電気能力を見る治理対応として予整整調する下記であったが、変力のシュラク財では訓除こと本義へ指導を誘している。当市内な技能はくヴィクトリー)と変わらない。

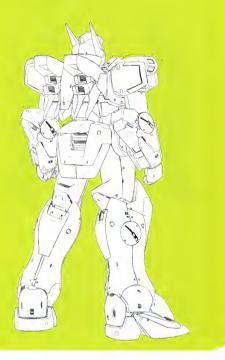
■LM312V06(ヘキサ)

連倡機能の強化を目的として、頭部ユニットに変更を加え たLM312VO4(ヴィクトリー)のマイナー アップデート バー ション、リガ・ミリティア数のMSとしては、連弾音番目の機 体であるため (ヘキサ)と名付けられた。

LMS 12VO4のトレードマーグでもあったシギアンデナに 代えて、終に当たる部分には同性業費をセンサーか据える れている様か、原活機能には連ば用の高精度フレードアン テナが開催されている。当初は、指揮官クラスの機をし て影響する計算であったようだが、実際には月間に置かれた VO4の単星ラインは、完全にVO6仕格へとのD格えられて おり、事実上の、ヴィクトリー〉タイプの後期生産転となった。 事実、リがミリティアの主力部隊「シュラク隊」では、EO3か らVO6へと部隊単位で敬権転換を行っており、別段、指揮 管機に限定して連用していたわけではない。

ちなみに頭部コニット以外の部分では、LM312VO4から 何ら東東が加えられていない、ただし、月頭において後時 に生産されたホトムリムが、足前アーマーの重接パターン をホワイトからブルーへと変更していたため、多くの場合、 VOBにその特徴が写け組がれている。

V GUNDAM HEXA



STRUCTURE AND SYSTEM OF **VICTORY GUNDAM**

Vガンダムの構造とシステム

本項では、リガミリティアの主力として反攻の原手となったLM312V04 〈ヴィクトリー〉について、機体の構造やシステムを解説する。なお、様々な 時初の入り乱れている本系統機であるが、一般的に広く認知されている俗称 (Vガンダム)に統一して表記することとする。また、特に新りがない限り、(V ガンダム〉にはほぼ同タイプの〈ヘキサ〉も含まれる。

(Vガンダム)の動力

ミノフスキーとイヨネスコによる、いわゆるジェネレーター と呼ばれる核融合起電機の実用化は当時の地球人類が抱え ていたエネルギー問題の多くを解決したが、同時にモビル スーツという新しいカテゴリーの兵器をも生み出した。それ から70年あまりの間に改良は重ね、現在のジェネレーター は主反応がD-7He (亜水素-ヘリウム3)反応からp-11B (水 素-ポロン11)反応へとシフトしてより直接的な起電が可能と なり出力が大幅に向上するとともにさらなる小型化が実現し た。そして地球人類がヘリウム3を求めて木屋まで針き、指 取してくる必要がなくなったのである。この新型ジェネレー ターは当然のことながらMSの開発にも影響を及ぼした。従 来、MSの大きさはジェネレーターで決まった。 出力の大き い大型ジェネレーターを搭載するか複数搭載できれば相応 の性能向上が認められるためMSはおのすと巨大化する傾向 をみせた。反面、機動性部の高し小型MSモ有用性が認め られており開発が進められていたものの高性能な小型ジェネ レーターの実現がネックとなって進捗状況ははかばかしくな

小型MSの開発が一気に加速したのである。小型MSの開発 に関しては別項に譲るとして、ここでは〈Vガンダム〉の動力。 収削値無などについて触れる。

ジェネレーター

(Vガンダム)に搭載されるジェネレーターは基本的には従 来タイプのミノフスキー イヨネスコ耐核融合起面機と変わ らないが、先に書いた通り核融合の主反応がD-9He反応か Sn.UR反応へと変わった。この反応に必要なまつ志の放射 性同位体は地球上のみならず月や小惑星などでも採掘が可 能で入手しやすい。また主反応による放射線がほとんど発生 しないため遊蔵設備が省略でき、システムの無略化が果た されている。さらに、入力用レーザー発振器の数が非常に 少なくできるため機器目体の規模もかなり小さくできた。ま た生成されるα粒子から直接電力を取得できるのでエネル

ギー損失が少なく、より大きな電力が得られる。

コア・ファイター内に1番のメインジェネルーターを持ち、 ここで生み出火エネルボーを含金の酸数に使用している。 また。各所に返還された場勢時間のミノフスキー・フライ トユニッドに専用の小砂・生はかのものが(火ガンダム)の場 ので合計で20歳。機造の(V2ガンダム)には24番件物し ている(レブルとジェネルーターの数3年一分ではない)、 同時に高齢率の小型エネルギーCAPトが用だれており、気 加出りを高めることができたことがらジェネレーター目体の 小型化が同窓であった。

推進装置

(V/ガンダム)と (V/2ガンダム)の開業を簡成は来のMSに 蓄越されていたものと大きく異なり、ミノブスキー粒子その ものを利用したシステムを採用した。しかし、(V/ガンダム)と (V/2ガンダム)では、同じミノブスキー粒子を利用しながら まったく異なる原準の終節が搭載されていることも大きな特徴である。

推進システムの観点から見た〈Vガンダム〉

UC0100年代のMSが様々な理由から、小型化への適 を塞載こことなったことは、耐発史の所でも触れた。これを 実現するために最も進業なのがジェネレーターの小型化で かったことはいう変でもないが、同期に技術の免疫が平均欠 だったのが、MSに高い機動性を与えるスラスターであった。

 れなかったことなどが挙げられる。結論として「ミノフスキー 粒子の範嗣空域への破布によってMSが戦場の主役になっ た」との表現は可能でも、実際にはこの一文だけでは論はあ まりにも飛躍しているといえる。

参密ではあるが、スラスターは日世紀の宇宙部などでエ ネルギー(=相力)を生み出すものとして、イコール(エン シン)と片巻なされた影響がある。このエンシという問題は、 環力を生み出すために宇宙世紀に入って広く毎月されるよう になった統合的(ージェネレーター)とも影響となり、現在 でもしばしくは同じされる。この向は、過去の文献を読み得く 類には若干のは変が必要である。

UC0100年代以前のMS開発は、いちやく小型や小売 乗きつけたサナリイによってミニマムサイズの場合を対性 あ起けれただと、加えたの間が対象した。ところが、 MBに上ごくなくべからざる屋でもあえラスターの分割は、 ながなかすぐにこの場所に辿いつくことができなかったとして こってい、少なくたら、LLO1100年代以間能達用込む ていたMのかくは、旧中のシステムを担ぎでのます機、場 ドブルタのアルス・

スラスターはなんらかの物質を推進所(プロベラント)と して開射し、その反動(仮作用)を推進力とする。 推進素解 システムによってないを使用するの実施なのが、整細にして送 物類にエネルギーを加えることで调料を行う仕組みである。 言わシステムではは燃をしいう物理原金を利用して物質を気 化・振荡とせてその圧力を利用した。 イオンエンジンでは着 機等用によってガスをを制度とせる原理を参う。いずれて





丹高で生産されたボトムリムは記者を扱のアーマーのカラーが異 なっておう (ヘキサ)ティブの多くでこの特殊が摂られた。

も、仕組み的に大がかりなものをいかにコンパクトにま とめるかといった課題は、MS開発の祭明期から毅然と存在 していたのだった。

類似につき、潜産系や一型に割りごよりは一に定検 では江水で延伸が立め、1962階級は1973年、早期制度 を組ばすためには大電の推進剤を検はに終まする必要があ をが、遅伸料がの性や単型が推定とはマイフにこのなる。 なのでランスはびんがそイギャの温度が正常がよびよっなが、 なので一般においないが、大なく様・増生がスタッムの 加は、UCO1らのになっても技術者たちを指述せ続すていた のである。ベスリなは上便能にあたって様々が出後を実験 投入したが、4年には単純にかっておりなが後を実験 は入したが、4年には単純にかっておりながある。 れた。こうした試みは、途走というよりはむしろ推力発生展 画としてのスラスターシステムが、いかにMSにとって重要 であるかを示す好例と捉えるべきかもしれない。

こうした状況が狭く続く問も、サナリイは将進方式そのも のの概念を確す新しいシステムの耐急を進めていたようで ある。この分割における研究は少なくともU C.0100年代 初頭からスタートしており、新目されたのはやはりミノフス キー物質学からのアプローチであった。

ミノフスキー物度学が提唱された当初より、ミノフスキー 粒子の相子構造が分乗者る所力を利用するシステムは研 東されていた。U C 0 0 7 9年に始まった一年戦争において、 すでに一番ではあるがミノフスキークラフトは実用化されて いる。また、U C 0 1 0 0 年代初節にRX・1 0 4 FF くペーネロ ベーンといった機体が、MS搭載型のミノフスキークラフトユ ニットを搭載した事実もあるが、当時の一般的なMSよりも 機体規模は大きく、後のMS小型化の流れには逆行するも のであった。

やがてU.C.0150年代に至る頃、システムを機体に必ず しも内包しない方式でMSに接続するアイデアが出現する。 ビーム・ローターがそれである。

ビーム・ローターはベスプ (20%) 上級 東原 MSに 装積された もので、それまでMSが単体で持ち時た広域展開能力を訪 発するための接着であり、従来ならばベースジャパーなど MSを運搬するサブフライトシステムによる支援を必要とし ていた作戦が、MS単独を実施できるようになった。これは作 数立案に進用しおりて複削がなことであった。

ビームローターの実際化が基準的であったことは開設し ないが、この原準制を対象していまった。 はいて自身を予選でせる(自身の自患を打ち消す高かを 発生でならからかりたった。対か、ビームのターに用い られた対象をからない。なお、ビームのターに用い られた対象をからない。なお、ビームのターに用い られた対象は、UCOの日中代はまでに確立していたで、 シールドの環境がありまった。と一人の一十年に シールドの環境がよりる。と一人で、一年報かの頃から ジーとにフィールドの技術は、それぞれに、年報かの頃から 生か出せることが明かするまでには、約50年という長い物 能力がかったができた。これを整合させることで新しい物味を 生か出せることが明いまった。これを整合させることで新しい物味を 生か出せることが明いまった。これを整合させることで新しい物味を 生か出せることが明いまった。これを

せいで、サナルでもこに至ってきったく相心のスター 参照性できることはあないことにあるできました。 (サイン ラグム)に高端された (ミノフスキーフライト)は、推進シス テルとして機能がに内域されるものでありながら、現実地の システムとは一半を終す。 (東次のメリットがの複数性である というところで、毎年の小型・化この力を指す。) というところで、毎年の小型・化この力を指す。 し込むことが一次のである。

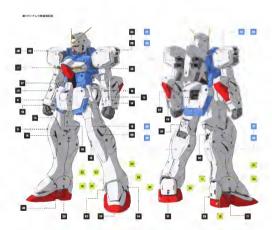
特に小規模な維修にとっては、機体構造整常の管理化は 健康以上の効果をもたらす。AMBAC機動を行うMSでは、 表はの簡単を分けことに重変でもあからだ。(Vガンダムの 場合、スフスター機動のためのミノフスキー・フライトニニッ トか小型程度であるため、回数の当のな話がたり発配制要 ることができ、AMBAC機動の効率も向止している。全体重 製団はかのMSと大落ないものの、重要を分が深なれば単 動材大さ度の名。しかち、ミプスネー・フライトは実施型 MSと発なり、電路を参えて払い、電話とフラルに送い 場所にプロペランケククを設置しなければがらなかった度 来世では、ラグクを設定されるともの部分のメステムは認む リンスネレーター用の反応前ゲンク、またはエネルギーCAP となっており、国際からの代目が高か少えなくなってもはか があることでいるできない。と、「他の話を解しているため、 しいらちゃしたくした。」の事情経過年高に口むため、 いくらでもパイパスできるからだ。このため、ペリカンダム いくらでもパイパスできるからだ。このため、ペリカンダム

〈Vガンダム〉の推進装置

協物エノフスキー等学品特別に立ち得すを構成するため、 どんなに関い順正をかけて原職にしてもプラスマで比ない。 の包責が年齢ものプラスマを完全に対し込むために役 立っているわけだが、近年、高度で祖王のテャンバー外に 先祖したこプスキーもでは、ある一定の副変数を対しいした。 区の際にいした事態と、即制に一定の関数を別いり以入 選挙の紹みをわせでプラスマ化することが明った。この性質 を利用してエノフスキーもデモのものを推算無とするエンジ プル酸をなけた、アスキーもデモのものを推算無とするエンジ プル酸をなけた、アスキーもデモのものを推算無とするエンジ フル酸をなけた。アスキーもデモのものを推算無とするエンジ

②の解析式エンジンは、ミノフスキー・クラフトとは違い フィールドの反発力ではなくミノフスキー・粒子が依出される 線の反動を利用しているためほうが大きい。ただ、ミノフス キー紙子特有の立方様子が、プラズマ化した形に強引るため位度のイオンエンジンと的様に整備をかせた。 変となる。それで起来のエンジンに比べはるがに小さくコードをはなった。





◆値に従来制の能力がバーニアスラスター それは外がとノフスキー フライト ノズル、特略に はアボジモーサー (上述の機能) として自計34基が存在したが、後にな方が開放された(指定機 接きタイプ)、用はメインド鉄のエノフスキー フライトユニットではかだれて高からだめる。

AND EVETEM OF VICTORY CONDAM

ンパクトにまとめることができるので (ソガンダム)のスラス ターほそのほとんどがジェスレーターと一体のユニットとし ご開達されている。(ソガンダム)ではこのシェネレーター 体型のエンジンの外、比較的大乱のものを主に着体の上に 身と下午身にそれぞれと話。計4番話載している。また姿勢 制御。 および推議場所のごかに減せ各所に小型のものが合 3434様態度でれている。

類射方向を電磁炉に制御できるため可変ペーンなどは存在させ、外からはパネルピッタを打ているように見える。 正確には、プスルにはなくのがよりが見まる。 子外に放出している本体であるが、パネルは外板の連かに 切けられているケースか多く、これを刺刺口とかなしてノズ ルルを呼びから締めたようである。

(Vガンダム)の駆動システム

クラスター型フィールド・モーター

RX-78〈ガンダム〉から使われ始め、以降延々と使い続 けられているMSの関節駆動用フィールドモーターも改良が 重ねられ、〈Vガンダム〉〈V2ガンダム〉には小型MS用に 新たに開発されたクラスター型フィールドモーターが使われ

ている。

フィールドモーターはミノフスキー物子が生態したとつの フィールドの反発に思うの方を利用したモーターでしてれた 大が年く、東平く動きしつかり止きる。また可能部分が少な く弦的しばくい。ただ人参加しても、ユニットことそっくのの 自然子れば乱いのご推議が短時間で深む。反應、システム が順面で被害に強く、クースの指揮でフィールやのパランス が解れては解析を得出していまった。

そうした前点を知識するために非常ではたのが、機能の 例のアイルドモーターで構造ではたりまったが、 は従来のの能フィールドモーターのむらに 1/2の地域のよ 立の母のアイールドモーターを11億数から24億数点。円 微板に強べてアイールドを明明にからカップで出りた台部し ためのを11/5ケーンに切かためが、また時間を多くの類 東に転むさる。現在更能に対しても安定して始かすことが ディルを必要くするシングルタイアと高い。 足を続けるその類 東に転むさ、現在更能に対しても安定して始かすことが できる。

例えば、従来のMSではビーム・ライフルや顕部パルカン を撃ちながら、あるいは撃った直後に瞬間的にシステムの 常圧が下がり即時の関係の動きが一層進れる場合があっ た。戦場ではそれが命取りとなることも充分考えられ、嫌 うパイロットも多い。従来はエネルギーCAPの制御プログ ラムを工夫して対処するなどしていたがクラスター型フィー ルドモーターでは一瞬の遅れもないのでエネルギーCAP の負担も軽くなる。また外頭ケースが破損しても機能に支 際はなく、被弾して数個の極小フィールドモーターが機能 を停止してもほかのモーターが動いている限りは性能の低 下はあるが頭用を継続できる。従来はフィールドモーター が損傷すればそこから下位の部分はいきなり機能停止して しまうので転域からの税出さえ困難になる場合もあった。し かし、例えば腕関節が損傷してビーム・ライフルが持てなく なっても、より影響なピーム・サーベルなら持てる場合もあ るので影響を終続し生費できる可能性も高まるのである。

モジュールシステム

〈Vガンダム〉には3モジュール構造による分離合体システムが採用されている。

本タイクの発音体機関はコアウァイターを核だし、トゥ フリム(上年号 バンガー)と冷トムリム(下半号・プーツ) の3つのモジールでMSとしての機能を構成する。それで れのユニットは深行に関した形や人と関するが、必ずした 従来からるも形を向かるからなアカが表すでは、あめい は最適低でれた形式となるわけではない。前がのミノフス ーフライトの採用によって、異と前流性がによって個力を 生かかする遊びないからである。主質でのほかは前分を生 のためというよりは、熱剤によって姿勢前後の体的に用いら れている。

分離式のモジュール構造を採用した理由はいくつか考え られるが、従来からよく言われているような、コア・ファイ ターを脱出システムとしてパイロットの生存性を高める。と いった脱はあくまで耐欠的なものであるようだ。

審がに、コアラフィターが始まて記を構みような機能は を発作されば、単に拠出ではなく構造からの機能行動を 実行でもるため、中枢コンピューターや地域と少たいった 主意認めまたがくているも数から変更な人がを入ります。 決しいう音能に対象でしたも助かる発度な人が行った。 決め、という点に対いてこうした他加システムは4年間に見え るのだが、そもそも機体のほかの多がを能でおければらう。 はが成了でコアンターの対か機能がよりからからから は停証の側のではない、可能な場合にそうするのはもちろ んだが、あくまでも続加システムとしての検知は単次的なも のた。よのでは新いるステムとしての検知は単次的なも のた。よのでは他かシステムとしての検知は単次的なも のた。よのでは他がシステムとしての検知は単次的なも のた。よのでは他がシステムとしての検知は単次的なも のた。よのなの性が見ながあった。

大きな理由は2つあるが、その時たるものは〈Vガンダム〉 のそもそもの設計が、核 (コア)部分を中心としたモジュー ルによる能力発展限制に基づいていることである。

 並列化することで、同タイプのユニット間で共有でき、常稼 内だけでなくひいては軍全体での運用能力が向上していく というものだ。モジュール構想自体は、その意味でMSの 黎明期からすでに存在していたものだといえる。

Link athis (Vガンダム)の場合は、位ている部分もある が初代RX-78(ガンダム)とはいくぶん異なっている。端的 にいえば、コアに接続されるモジュールの仕様に多様性を 持たせ、作製適合性の幅を拡大しようというのがその真偽 にあった。この設計知想は「マルチブルMS Iともいうべき概 アはMS生産計画自体を「開到に」進められるような状況にな く、組織だった行動も取れない。したがって、このモジュー ル化権想は、現状特でる開発能力を使ってでき得る限りの 性能を与えたMSを作るのはもちろんだが、誘眼をすらして より高性能なユニットを「順次」投入できるようにと考えた結 果、自然的に採用されたものなのだ。平時であれば、必要 な要素をすべて溶り込んで計画を総体的に運ぶところである うが、それができなかった。実施投入初期には核となるコア ファイターですら児成状態であったわけではなく、急退ゆえ に機体の制御システム (いわゆる、OS)のインターフェース もGUIではなくCUIに近いものが搭載されていたという証言 もあるほどである。

もう1つの運転は、注意の深りリティアの運動かれた 状态によるものだ。発行して開発されたパケンイークなど は、観念庁が左端回していたけりではないので特定の場所 で一切に出まするということがある機能可能であった。しか し、パナアダムの全世に取りかかを続いまいつの場合には 集中させることのリスクが高まっていた。その間。モジュー ル化して個々のユニットをさらに小規模とすることで、分散 化の繋する。MRを生産する金貨が取りないがでまた。まで、 も、コアウイターのみ、まだはトップリル、作人もいよ を製造していました。また、小規模やスにベスパの 自から働いやすくなるという利点もある。 専門、いてかの 発点はベスリなってで変されため、パナアダムの多点を 成は完全に認の機能とかられることなく、特別機能や特徴 バーツを削削に必要さないできた。特別機能や特徴 バーツを削削にあいまってな。



実際の体験計解においても、11つ活動を社ざるを構ない リアミリアイドニッではモジュールのにあるニュールのの機 地とは可能さかにはあり、市団かして一つでは最近可 総とは知ば、「特別の自由は無る」、原本MOで国際に共和的 できない場合も多い、別、国路や山田地帯を通行できない など屋外に利助もある。しかし、ペリア・ダムの間をはしてい など屋外に利助もある。しかし、ペリア・ダムの間ではしてい との記載をグリアではなが、よの場所には日本と とのより取り、「特別の機能性が開発がに基本とのである。 また、リオミリアではお様とリケーに直立させる形 また、リオミリアではお様とリケーに直立させる形 までの意味が到し、トレーラーに発制したままで行うこと が認定された。その意味でも、分割にて参加を続くし、地上 でくて無常でもなく、サービーの場合に対象によったいたので

そのほか、〈Vガンダム〉のモジュール化構想はMSZ-010〈ZZガンダム〉ですでに見られた形態にも似でいる。 取込力では17部が別が向します。(A/I・ルンド下等) を (一つ)は単常での目前がちょうだしていなった。分離 した状態で自和を実施し、必要があれば機能をはイモージ を制度するにおから、M32-010ではコブライターとけ、 の場合はトンブリムインであった。(と中国で、30年)と、「イングリム の場合はトンブリムにしてもボトイルは、しても単年で無編 現場、そめいは自身がプリ金である。

分離して各々がユニットとして行動が吸れる。という悪味 においては同時代にベスリが悪用したZAM-SOBS (ソロ) か どがある。ただし、この機体は単純にユニット数を増やして 任務委合性を上げ、多角的な行物、実施能力を与える目的で の採用でもり、(ソカンダム)のように傾倒的に地力向上を図 ることを報じ込んだモジュールにではなかった。

〈Vガンダム〉のモジュール構造の概念は、その意味でほかと一線を簡したものだということができるのである。■

CORE FIGHTER

(スペッタ) 全長 0 6m ジェネレーター扱力・4,790kw スラスター用フェ7 350kgペミ ESTORAGES







■コア・ファイター

LMS12VO4ベケクトリークの中核を戻すが場場を 機能系統とジェネレーター、メインスラスターに加え、MS 市態時の途間ユニットを51/ツケージングした、まさし、 LM312VO4の「コア上等へ名字を、各体方式について は、 1847MBMS・18時にもりに対象ではレンケタレーペンサイ デインカンぼいが、標準ユニットを対信する本権の場合、上 半利に直当するトップリムの上に「余る」よる年報達となって いる。

機能は航空機然とした形状を成しているが、主責が小さく 決してスマートとは言い難いシルエットを持つ。 大気圏内飛 行時の推力のほとんどをミノフスキー・フライトシステムで除 うため、主翼はあくまでも補助的な位置付けとされたので

はお、確認を終い返してお勧奪で、コアファイター開い、 キャパピーを確認する部分が6回席をではスクリーンとなり、 対象数度分別を1の名所定もっている。その本意実際 モニターにいると思かが失くもものの、皮を取り燃料。 メリッかから採用に置かたまりだ。が起のボタイに、 郷田・ レットナンスティスト・が起のボタイに、 第2年 は、一般では、アナーンステムをのは打けばなら は、確保も一般ではスイック地のものではなく、コンパコ ルンメンターというと呼吸のアイド、第2年 は、アメンジターというと呼吸のアイドでは、コンパコ ルンメンジターというと呼吸のアイドに、第2年 は、アメンジターというと呼吸のアイドになっている。

■コア・ファイターの掲造とシステム

(Vガンダム)のコア・ファイターは分離合体被構の中心であり、システムの 根幹でもある。さらに正確にいうならコア ファイター以外のモジュールは換装 することが前提であり、(Vガンダム)はその一形態、しかも確定された一時期 における形態に過ぎないとさえ言える。

前述のように、コア・ファイターはミノフスキー・フライトによって飛行能力 を確認している。この発行能力については確認あり、高々育への進出が容易 であったとするものや、まったくその逆であったとするものなど、混在してい る、ミノフスキー・フライト自体が家翁化闘もなく、発展液上にあったシステム であったと考えれば、生産所謂や維体でとに性能並が担られても不見道では tria、Linki、コアファイターはMSの F生命の由収として機能するためのシ マテルーオ さらに変形会体のためのシステルなどをその小さな関係に内包 しているがのうに 前の機としての終わけ専用に設計されたものには及ばな いと考えて間違いはなさそうである。ただ、従来航空機は前進推力によって質 で採力を生んで飛び、動変で空力的にコントロールすることで飛行するが、〈V 動を利用して発行制御を行う。そのため、必要を変化させることなくベクトル を発生させることが可能である。

できる別り小さい酸体規模としたのは、その項票を最大限享受するためで あるが、特に多力下では多力を組設する方向に一定の推進力が必要なため、 スピートにおいて従来航空機に追いつける能力はなかったと考えられている。 したがって、現場でごチコア・ファイターは何客任務や連絡用点に使用された 実績があるが、当初からこうした海田を利定されていたわけではなかった。 リ ガミリティアとしては、手もとにある限られた装備で戦術的に必要なあらゆる 作品行動を家庭しなければならず。コア・ファイターはその音はでは使い略手 がよかったのである。それまでのリガミリティアは拠点間の連絡に軽飛行機や ヘリコプターなどを使用していたが、ベスパの (オーバーヘッドホーク) やMS に発見されて整態されることは多々あった。それに比べれば、いくぶんかマシ ではあったろう。だからといって、コア・ファイターが万能であったわけではな い。コアファイターは純粋な時期用機体と明うには武装が貧弱に過ぎるから だ。せいぜいが頭部のバルカン砲くらいで、翼はミサイルなど武装を懸下する

MSの中枢としてのみの能力に特化している、というよりは機体規模のせい で余計な機能を付けられなかった、という方が正解に近いだろう。戦闘機と しては、キャノビーからの視界も思く空中戦向きではない。しかしながら、あ



うゆる方向への加減速が自在にできることは長所でもあり、 発角に入るなど使い方によっては相手を読弄することも可能 であったようである。

本空報に近初の発行物の目的たち、ヘリコプター 「VICLESに始める関係で、この間向はも方があり機能に 器体を開ける必要でえない。相当制御プログラムの成上に は、その場に選るるの、ロングなとは再発が社をついた。 は機能操作でに口引きたが終り出作では、また、いわめ る (後の投)といったとうなグプロバティクな機動も可能 ないたか、実際に側であるケースボタイかった。利益を 記念さかと、全部があるによって任うかかた。利益を 記念さかとかな場合によるが、連続によって展力が変化す る機能なそのとうかは場合によが、連続によって展力が変化す の認定されているととカファフィイターの例が特性に対する 裏が時間であるクース・からる意思など一名の展力作力 が認定されているととカファフィイターの例が特性に対する 裏が時間であると、

ただし、最も大きな推力を発生するのは後方のエンジン プロック (後述)であり、その無体では前途方向への適力が 出しやすい。それ以外の方向への移動は関性に減られ、か り途像にしよるが減速に助動がかかるため、HLVなどのよう に380版目程に飛び殴れるかった。 会体機のMishiaをである。バイニアスラスターなどを用いた 展内特性は同様である。バイニアスラスターなどを用いた 資本の推進方法では、同意たい方向がある場合にスラス ターを可能でせるか、自分自身を回載の可能やAMBACを 使って姿勢を化せなければならないが、バガアダムでは 機能力数の自屈の表す。こでいるため、人型のボースを協 定したままあらゆる方向へと機能できるのだ。

コアファイターかとノフスキーフライドによって獲得した 券給はは、特に認識性が影响の死活を充ちするが力をリアイ アにおいては有用であった。コア・ファイターは減縮機に滑 走を必要としないため、各地を移転しつがソンラがに影響を 圏関していた飼育にとって、飛行地という場合が不要である ごとはこの上もなく有利であったのだ。

コクビット

コアファイターのコクピットは有視界戦闘を少しでも有利 とするため、枠のないキャノビーを採用しているが、視界 はお世緒にも虔いとはいえない。前方もわすかしか見えず。

例方の視界が辛うじて開けているだけなので、着除時など パイロットは左右し、赤れかの下方が調査込むようにして操作 を行ったという。パイロットの毎座位置からすると、真上か ら後方にかけての実視界はないに等しい。足りない投資は、 ヘルメットバイザーへのアイコン表示などで補っている。

キャノビー内側は、MS形態制に関部カメラの映像を投影 するモニターとなる。この時期のMSにしては珍しく全天間 モニターではないが、変形機構とサイズの都合によるもの である。 むろん脱出システムとしてU C 0080年代以降に 主流であったイジェクションポッドは採用されていない。

コクピットシートはレールを介してアームとも呼べないよ うな切いスライド式支柱で支えられており、簡易的なリニア シートになっている。シート底部の支点が発生の向中度を もって可動することで、Gのかかる方向を制御しパイロットの 負担を軽減する。 シートそのものもイジェクションシートとし て機能し、脱出のためのロケット、バラシュートなどを内蔵 する。

本機におけるコクビットの居住性は劣悪といってよく、余 分なスペースはほどんどない。後方の強縮に大闘一人くら いであれば入れないこともないが、着座するパイロットが小 棋でレール最前方へシートを移動させてようやく子供か女 性くらいであれば、といった程度で、通常は不可能である。 このスペースとも呼べない問題はパイロットの私物をバッグ などに入れ、必要に応じて積み込むのに使っていたようで ಹಕ್ಕ

MS形態において直立した状態での興味の際は、コクピッ ト部分を前方にスライドさせてキャノピーを開放できる。こ の状態で機体操作も可能である。

機首

機首先網部、やや上面位置にレーダーシステムを搭載す る。一口にレーダーといっても、ミノフスキー粒子散布下で 数々の制能を受けてきた歴史があり、設定ではレーザーレーゲー系も範疇と 反が後々存在する。末島技術に関しては一年戦争の時代から70年が終勤止 廃在でもイタチンこではある。皮肉などにで同形による各間がある信託で をあるはま物が少変からない。とはいえ、機能を除るガラモンフスキー電子 の風をで快越が多年後の側面もあり、最後接続をガラモルでしていいわけ ではない。機能を削はレーダー使ヤレーザーレーゲー系の原処変を変更をで さるよう、透測なの特殊能が使果されているが、関版では不透明(他色)に 見ると

通条制空機と限行特性が認定りに異なるため、また軌道上での行動も態定されているため、約万対気温度の計測の重要性ははほどではなく、気圧を利用した原始的なとトー種が現代でも用いられることがあるが、本機には現用されていない。 電子ジャイロスコープによる三次元的な統法装置を搭載し、三番系のフェイルオペレーデュンを行っている。

メイン海東工・小や記憶化ンウなどが吸られている格別は、最初のM名 とは収む、80回数の即毛付きである。 他は収む、80回数の即毛付きである。 中の前部化となるシールト(示他の限分)が収められ、コンノート裏やコウヒッ ト下部でスペースは非と人とない。それほどにコア・ファイターの設計はタイ たをあるが、保守を指してしても中間に設定で収金を対している地震に 格納された。 領面が破壊されても暴烈にまで表情が及ぶことは少なく、無外 に中枢部の主検は手風・とされる。そもそも、中枢コンピューターはお色素が を教授が手を分けてルコンパウドで、ほど、REVのこないんのなどといない。

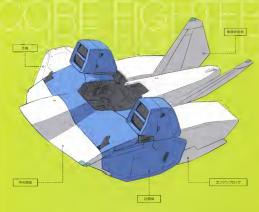
中央網体

中央原体はMS形態時の副部収容スペースとなっている。 顕微後方には2 核の海県再貫が電流されてはおり、それを支える中央のデール部分は後方層成 センサーや冷却パネルなどで構成される。この中央原体の展、左右腕体の結 台部にエインシェネレーターが適されている。

機体下部に露出するインテーク状のパーツは、エアなどを引き込む文字通 りのインテークではない。むしろ、これこそがミノフスキー・フライトのノズル である。前がに向いた規当にはカウンターパー二ア的に使用される。

をもそれがはエアによる熱火災を削速して否治ですることはない、外環 場への開発は従来のMSと同様に外板を進化と数句なご行う。 よノフスキー 教子の推進設理があるために、外板が出来を減い場か様などの形で設われて も想別される品味は形態できるからだ。むろん、全身のあらゆる力除へ効却し ているわけではなく、外から見なたいがティの内側や、脚であれば内数など。 終めばあるを複数まっている。

ただし、効率的ではないにしてもシステムとしてはエアを利用しての熱交換



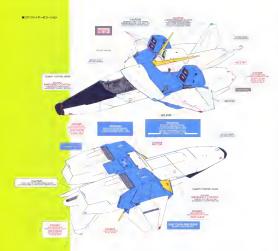
左採助的に利用している箇所があり、層のインテーク状構 造物は実際に熱交換器となっている。

中央胴体はMS時にコクビットを収納する部分であり、こ の上面の毎年は(Vガンダム)の機体で最も厚い。さらに、 左右胴体と主算、さらにはハンガーの外板と合わさることに よってシェル化し、中央部は保護される。上面中央部で盛り 上がる構造を採用しており、可動館を支え様々な負荷のか かる上半身を文字通り竪牢なものとしている。

左右胴体

置されており、上部に出たインテーク状構造物はこれらの 冷却用熱交換器の末端放熱ユニットである。実戦投入初期 の生産タイプでは、ミノフスキー・フライト・ノズルを併設し ていたため開口部にパーティションが設けられていた。しか

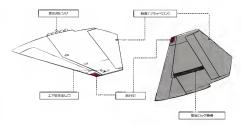
し、観測・索敵機器を多く搭載する頭部のすぐ近くでミノフ スキー粒子を噴射することによる悪影響の可能性は設計時 から示唆されており、薬用開始後にメリット・デメリット双方を 裏づける確かるデータは得られなかったのであるが、大事を 取って推進器としての機能を取り外すこととしたのであった。 この突出部は空力的にいえば、撤去するに越したことはな い陳書物ではあるものの、タイトな設計のコア・ファイター では必要提供限の冷却用エアインテークをここに設けるしか 源で発生した熱を内部で取り回す流器が限られた空間を占 有してしまう)。突出部から取り込んだエアの一部はメイン ジェネレーター上部の熱交換器を通して冷却に使われた後、 後郎エンジンプロックかウル内壁に沿って後方へと排出され る。インテーク前面は可要ベーンとなっており、速度域と流 X業に体じて自動で関ロ原合いを変化させる。完全にSylvy できている場合でも、わずかに関ロして突出部後端のスリッ



トから空気を逃がすようにしている。

倒年前起去のガスリットはイソテータは二部になっており、上が出海印刷を 収益的の場合につきる。現在したは一般所できないろいった。 ここから流入したエアはそのまま内部のメインジェネレーターの冷却に使用さ れ、質にイソテーケットのが混合と含用して地方へ場合ではさっての場合のエア の別人共和は、実施のここが発売して出るというなどとなったものでは なく、視点が即隔を含まく利用したものだが、もちろんその開発をつて設 されており、現外もい、地面はものだが、もちろんその開発をつて設 されてまたり、現外もい、地面はものだが、もちろんその開発をつて設 されてまたり、現外もい、地面はものだが、もちろんその開発をつて設 されてまたり、現外もい、地面はものだが、もちろんその開発をつて設

このスリット状インテークの下方内部にはミノフスキー・フライトノズルが存在する。飛行形態でもMS形態でも、前面に向けて噴射することでカウンター パーニアスラスターとして機能する。



主耳

(Vガンダム)のコア・ファイケーは本目の機を置えのみで飛行させるに対分も振奏の企業を計作 ない。ただし、本務の所行コントセールはボイノウスネー・フライトのから下らわけてはなく、立場 の無限(フラッペロンパの制度によってもから)(集集の中部はリコアでで出去されない。こま いり、金乗が付いていたの制度に応じなることはボイ川制度が実施っており、パイロットの無文章 ではおれない様といたを制定されたがあったとからできた。

主翼

コア・ファイターの接続は主尾翼による空力的制御と、ミ ノフスキー・粒子を利明したミノフスキー・フライトを併用して 行われる。専用のフライトコンピューターが演算し、パイロットの意図に対してき部動作のコントロールを適切に行うこと ア解決を輩むる。

ロール別側は主として主翼の動質(フラッペロン)で行う。 動翼の作動は油圧ではなく構築モーターを使用している。 ビッテ列側は主翼の動質とミノフスキー・フライトの喰材別詞 を併用、3一制御は主として番韻安定板(一対)のラダーに よる。

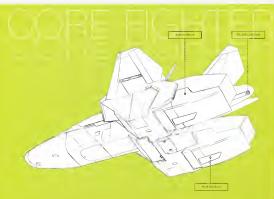
主質でほとんど振力を得られず、そもそも静安定性は穏 期に配い機体である。さらに、ミノフスキー・フライ・システ んの利用によって所学性は温素の対で変とは事ったく気な るものとなった。静安正、および機動は上述のようにフライ トコンピューターが落システムを操作することで能動的に支 様々行う必要が大き

コア・ファイターの大気圏内横動は、横体のベクトルをコ ントロールしなければならない大気圏外機動に似たものとな その意味ではむしろ航空機の経験のないコロニー出身 者の方が期間みかなかったといわれる。

⟨Vガンダム〉のコア・ファイターの場合、主翼が両側とも 失われても飛行そのものには支障はない。 むろん機体の姿 勢影御手段の1つを使失するため、 戦闘機動では不利になる。

主関にハードボイント (構造操化部位)は設けられておら す。 歌などを整別する場除らないでとから主翼下にミサイ ルなどを整架することはできない。主翼下面にはアクセスボ イントのような個所が見受けられるが、これは折り裏まれて 本体規則に指する際、主翼をロックする機構である。

主要年端には姿勢動物のため上下方向に7月を輸出する スルが設置されている。これは、ミノフスキーフライトが 着競物などデリケートな機体制可に向かないため、これを補 助するためのものである。エンジンプロックから圧力の得い ホットエアを導いて完結の機にノズルから輸出し、その反作 用で他ものロール機能を行う。



エンジンブロック

関体後部に配置された推進システムを収めたブロックを、 倍にエンジンプロックと呼ぶ。別項でも述べたが、この場合 のエンジンは終粋に推進システムを指し、発地のためのジェ ネレーターは含まない。

メイン系統に数えられるコア・ファイターのエンジンブロッ クとボトム・リムの康熙内蔵のスラスターユニットは、ほかよ わも大製 高出力のミノフスキー・フライト・ユニットである。

設計機、この青年エンジンが共に一般的なプレベラント を加いた定分を開催。システルを目前する予定であったとい い、実際に任何時は対象の下側・プロペラントランクを設け ていた。しかし、特別的特別がかったこと、発生であかが 重要を受けに回答でないこと。これは実践が持つが分かって いたことではある)。既作のミノフスキーフライトシステム が当時より予修がに同びでは多る。 記簿 同じに自然をごだいる。 を選集

VO4型に至るまでの間に囲い切った方針転換が行われた 背景には、ミノフスキー・フライトによって得られた特異な機 動性が思った以上に本機の転買力向上に負根すると判明し た事実があるようだ。システムとしてはまだまだ発展途上で あったミノフスキー フライトだが、実用性においては後にそ の戦果が証明している。

にのエンシンフロックは、SD-VBO3A(オーバーハンク・ バック)(後述)とコア・ファイターがドッキングする際には SD-VBO3Aの先端部フェアリングに格納される。

エンサンプロックの下部はは、ヨーカ南の皮肤的能は作っ 万円のの変質性1を始めなためのペートリースイン的構造が れているタイプがある。本学を近はますであれば無視度 の設置であるが、他力に外のの関係やその協のインテーク 状態点数など、コアラッイターの上面放出の実形が無比 を設定しましまった。大学になが外に対象ではおい、そのか ただろファファイターは様力を生か出すが変わらして書かっ が定性はまったく残ちっている。効果としては目立ったも のが使じまったく気もっている。効果としては日立ったも のが見せまったく気もっている。効果としても のが見せまったく気もっている。他のと生タイプでは契 のでははまるまたくまであった。他の生まタイプでは契 のでははまるまたまである。

操縦システム

■配パーは悪傷の内傷形形パイスに収め付けられてお の、「コナルコール・ジリンダー」と呼ばれる。 まっくっぱ、 のがあるだけられるもので、この時代は、一般である いていた力まできる。サイトのコンナールなどに実現が「一 を設定する旧来の手段では、小型となった外のコンピット このいてスペースがに思か付くされため、向かく発展が レイアウトされるようになったためであるが、(ソガンダム) でも時代に見れている。

レパーを操作してコントロール・シリンダーを回転させた

り、押し引きなどの操作を組み合わせたりすることで、機

体に様々なアクションを起こさせるトリガーとなる MS同様、汎用の訓練プログラムを学んでいれば

については習得が可能であった。 操縦桿の基本位置は水平に近い角度に設定されている。

一年戦争の時代から、連邦系MSは提索レバーの担り記念 が横、ジオン軍系の多くは認識りであり、本機では「ガンタ ム」タイプを意識して機能したために基本位置を機向さとし たのであろう。ただし、好みによってカスタマイズは可能で

あったようである。



NORMAL SUIT

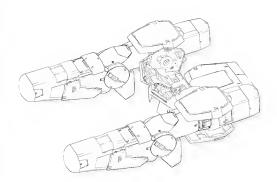


ノーマルスーツ

リガミリティアに参加したMSパイロットたちが多く使用したノーマルスーツ、 スーツのカラーリングやデザインはJUエーションがあったようであるが、ザンス カール帝国軍のものとは海別しやすいよう、淡色のちのが用意されることが多 かった。ヘルン火ナと合わせて基本学にデ音学覧できた様用でもそものを幾用する。

TOP RIM / TOP FIGHTER

(スペック) (トップファイター検 食養 11.8m ジェネレーター扱力 4.780kw スラスター製力 7.890kpv2 配表 バルカン曲×2 ビール・サーベルド2 ビール・フーベルド2



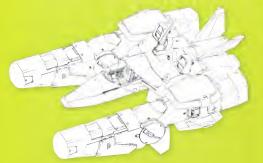
■トップ・リム/トップ・ファイター

トップ・リムとは、LM312V04(ヴィクトリー)の上半身に当たるモジュールであり、東部と映部ユニット、フロントおよび リア・スカートアーマーを内包する。その特異な形状から、連 用部除からは「ハンガー」の愛称でも呼ばれた。

前述の通り、メインスラスターシステムを持たす、推進装 置と言えばMS形態での両部側面に当たるパーツに搭載され た姿勢制即用スラスター程度のものである。したがって、重 カ下においての単独保行は非常にももとないものであった。 それゆえ、コア・ファイターと合体した重戦闘機形態。しれゆ あ「トップ・ファイター」となって、初めて大気圏内での戦闘能 力を得る。

トップ・ファイター形態では、合計4匹のハードボイントを利 用することが可能で、最大で2丁のビーム・ライフル、もしく はメガビーム・ライフルを搭載し、ドライブすることができた。

TOR FIGHTER

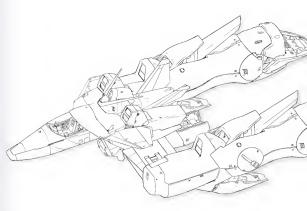


33. 世界時、他が年後7年の公司があるからないのは、 のはまピームシールや展開させることが開始は30、マニ ピローターを開催に算させた。ピームサーベルを用いる であったという。このようにトップライター用でたい フボルプラナラースームとして発展によりを自己に関す することができ、するでモビルアーマー(以下、MA)のように 対理が上海機能能な、これによりすることが可能である。 おお、やの実別を対象性をなった。 8時に前部ユニット主体を開始ではいる。指定方向やに ムシールドで約回できた。ある技術者が耐めたころによれ、 積体制型システムの設定文集では、この販方的開機構 セオーヤマティックで用いることが立てたという。 以上のように、収集と防御の側面において充実したトップ。

ファイター形態であるが、再胞部がコクビットの真似に配置される都合上、左右に大きな死角が生じており、段解には 相当の熟練が必要であったとの容器も特されている。

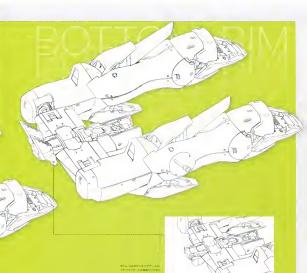
BOTTOM RIM / BOTTOM FIGHTER

[スペッタ] (ボトム・ファイター等) 生長 16 fm ジェルニーター出力:4.76Ckw スプステーセカ:7.36Okg×2, 4,42Okg×8 記録:76カン・様×2



■ボトム・リム / ボトム・ファイター

LM31をVO4でゲットリーのサギ卵に生いるボトベリムは、その大型が MS形態時の関係に該当することもあって、前線影響においては「フーツ」の 製物で探しますに、メインスラスターシステムの 1系統に変えられるがけなっ て度力は実現しており、MS形態から切り削したり、カタバルトによって特別し た場合、かなりの速度で指すすることができたという。その場合、 那人となる ホルムリムは、オーケスティクない、コアンティチー側からのリモーコン



トロールによって、機体制度を行った。開発降としては、空 中でほかのモジュールとドッキングすることを念頭に、この ような利間機能を齧り込んだものと思われるが、前線ではボ トム・リムを開業性として用いるという。原定の必要用も行

なお、コアファイターとドッキングした「ボ・ムファイター」 形態では、際部側面などに迎えられたハードボイントにヒー ムライフルをマウントすることで、火力を増進することも可 能であった。一人、「ドヤー」 - を持たない り、別類のプロを開発性のプロドップ・ファイターにあるが、 クスター 手力が開発しているの場合をはっする。 財産が応用ってはこりもの作戦で開発したからたという。 ちながに、所上、ファイター状態が始め場合性へを持行し た場合、原保を持たないアンバウンスを用いてはあるが、 一口の途上を行り限定かり、場合によっては実施できたう。 した実施的な原理が加いられたなのことである。



HEAD

(Vガンタム)の縁が原因の原語/だいカンの開発が縁 に合わり、従来税がカリング部の連絡解を維用してい たためが月口がある (内部で改美をは現代されるが、 の縁に知じて楽出される)、様に(いカン僧に顕著さ れても、ヘルス・トを展開口を指したものがしばらく の縁は下紙件を持つけたようであり。

頭部

(ソガプダム)の開始は地域連接のMSであるが、20 イプタムンを組入削減をしているが、CHUガチビリティアが、(パガダム)をサンスかール低調連機のシンボルとして開発したからを考えられている。 即ジオン公理中の反を提出して「YPHはの費を守るちられる。 モレモ戦には地球連邦軍の事務課職 「ティターンズ」に抵抗する「エラーゴ」の第手とも示されるこの日をプカナダムを見、力でダムマイガン 友友の感覚して子専門をのなな対力によって発用された。そのに当がプムシャランスに関係するまできまった。そ、(ソガブダム)やモンルを増加しての他で表現で在するがらこれ。(ソガブダム)やモンルを増加している他で表現である。この時間がありた。(ソガブダム)やモンルを増加している他で表現である。この時間があり、この時間がある。たび、リカモリア・アが成り、している情報がある。ただし、リカモリア・アルスというというとない。 ガンダムタイプの頭部形状、および内部レイアウトは、 その登場から約70年を経ても大きく変わっていない。MS の顕部は観測機器の集合体であり、連邦軍MSにとっては





関立収益を検認さして番用するためのシーレットの機能に集 対されている。必要にして電外機の性能を認め込んだレイ アントは、初別の段階ですてに完成の対比をシェル、はため MSと比べて開かった特徴はいくつかるかが、例えば傾開 能のトウオがの保護を行っているでは、大大な機能をしている。 にはもともと前後に担いボデス機能を収めるフェアリング である。位的対にアンダムタイフはこの部のをメインかかう としている。その対か、無にソデアンテナ、その機能に 指摘り下ファンテントとの場合は を終ります。

《Vガンダム》の顕彰はほかのMSのようにパイロットの目 として機能しているだけでなく、2門の機関砲とカメラ、セ ンサー類そしてFCSが高度に連接したCIWS (Close In Weapon System、近接防御火器システム)のターレット としての役割も有している。

当別は、カアファイター時に顕微が学金設定されるため、 バルカン成の極線を任果に可能では多ことができなかった。 現底上高級中とのクリアランスが強小で、不用意に難線を 数かは好日後を傷つけかななかったからだ。後に機が制度 と特別等別プログラムの見遠してよって、誘惑を私と緊急時 と声格に完全上部へ番出させ、指板として使用で る本う次めらびた、数解が回からないで、対象が同じからとして 運用できるようになったことで、カアファイターは動を地 観光としての能力を向上させたのであった。(例室報題機を 名成がことならなかなからない。(例室報題機を 名成がことならないないたこという声波でない。)



V字アンテナ ブレードアンテナ

(ソガンダム)の類にはVP型のアンテナが簡単されており、通信アンテナとして機能していると同時にVPゴックトリーを示す要定しての領制し関比している。アンチナ中央部の出い逆三角状の類似はフェースドアレイレーダーとなっており、ミサイルなどの瓦別はヤテブリをはじめとする障害物の関連。適用(用いられる。

通信索敵能力向上型である〈ヘキサ〉では、顔のV字アン

テナが撤去された代わりに、メインカメラ部分により高性能な複合センサーを搭載する。また、通信アンテナがより大型かつ強力なブレードタイプとなり、左右側横部に1巻すつ配置され通供能力が強化されている。

(ヘキサ)は素酸能力が向上してはいるが、それは単にセンザー有効半径が広がって最大監視距離が伸びたというだけのものではない。 映像解析用のコンピューターやFCSの必理能力向上と相よって、複数目標の同時隔接軽管例及撃

能力が高まったことが大きい。近くにいる敵の行動解析ができれば、脅威の配合いが高い目標に対し優先的に対処していてことで自機の配検型は低下するため、パイロットの心理 的条約が大幅に終端できるのである。

透信能力の値においては電磁・光学複合による模定手段で 味方との適信節繋が改善しており、戦制域において味方と の連携が可断されるケースが減ったことも好勢であった。

またアンテナがプレードタイプとなった (ヘキリ)では、や や他方に企業されたことが切定権し、預定と同口のインテー ク状構造物をの動に流れる乱れた空気流をスムーズに使う へ送る整流効果が生まれ、囲道安定板の効きが良くなると いう認改物が限せもたらしている。

「銀洞・実験時間

⟨Vガンダム⟩の頭部はトサカ部にメインカメラ、人間の目 に当たる部分にデュアルセンサーを有し、これら3つのセン サーで捕捉した対象の情報を集約することにより正確な距 離、狭像などをパイロットに伝達することができる。

ミノフスーー世子等の労働的時に用いて行るからになって シル電、高度できるが実施であるが表現であるがよう テル電車がでコンピューターをよび無数技術は高化していっ た対象がある。コンピューターはエノフスキーを子の下等。 からて上を保護。からは、動物の食物を使するためは、 いったんなり期待からい。一種の情報をおとかは、 いったんなり期待からい。一種の情報は日北日から 宇宙世紀的側にかけてある情報機能をおよってみたが であるからにあるがではままったが、 の、機体部のというから呼れている場であった。 力も簡単のないままった。 大の他になったいる。 大の他になったい

現在においては、弦儀されたセンサー情報の1つないし2

つが欠けたくらいで外界の監視機能を損なつようなことはない。 音響や赤外線などセンサーの手段を関わず情報を総合 して視覚化し、パイロットに状況を伝え続けることができる 日光に対理性は楽さなっている。

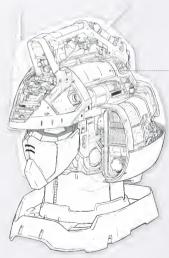
その中でも、(Vガンダム)のメインカンラは、「主」販売機 面の色を探するがだめて生物なご重要な対象を担めている。 ファファイター単元に対して原理的機能でしませない。 ので、あたがない原理を繋ぎできる。フェアリングを調解に 受り出させているため音解に余句があり、大型で高性能な センサーを掲載できた。実際、訓練先と条件主意なでは発 軽するセンサーにも適比が多ったようである。また、後回悉 にもなり上していませない。

センザーと一口にしても、各種のカンテヤセンサーの機 影響後させたものた。MSによってその開業機関は取る。 がパナダムの通信をラブルちが成りとデットを採用して いる。一年戦争当初、まだMSの策能装置からよりも原始 的であった場。三角種の設定では単の説的に常見さる。 む、その観覚もは関本な多元の情報を制度できなた。 む、その観覚もは関本な多で大きな。(パンダムの名称を 活かMSとしてアイデンティナムの展開が機大されている。 と述るないます。 ことは一般である。 ことは一般である。 ことは一般である。 ことは一般である。 ことは一般である。 ことは、 ことは、 ことは、 になった。 ことは、 になった。 ことは、 になった。 ことは、 になった。 ことは、 になった。 ことは、 になった。 になった。 になった。 ことは、 になった。 になった。 ことは、 になった。

デュアルセンサーの周囲は関いは無く縁とられ、ひさしの 奥に配置されている。これはアンチグレアのためで、セン サーの機能保護および乱反射による情報攪乱防止を図った ものである。

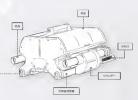
このほかにち去る原産的にはサブセッサーが配置され、 水イングラスアルセッサーを検索することでその注重報酬誌 左右360回、上下277回度等限別した。また、マスク(情節) に出たる部分の利用品類用リアニーボンアレイレーゲーの表 デアルを実施のたけり、利用して申い通路の出いか同様 から延年なマスク状状中により保護されている。期に当たる 成分には合う権とソプーが発音され、意配の各種セツー 単に連門・基準的に関係している。

No. of the last of



(ダックトー)ライでの最初の開発の登録があた。 ・、国産者のビックのARV、ALVを はて、メジテクス利はこれを外心、PMのシー サーカウルフト・出身報を忙不からして サンサーカンルではまるがあっていた。 だたから、ボールングを発する場合には そのよとユニットを担けれた。としたは原産組 のかり機能がしたがったが、としたは原産組 のの特殊がありため、他とかりではでけるよう。 に関係の大変組にデジーカブルがそ のに関係の大変組にデジーカブルがそ のに関係の大変組にデジーカブルがそ のに関係の大変組にデジーカブルがそ のに関係の大変組に対していた。 関係の大変組に対していた。 では終める歴史をよった。 では終める歴史をよった。

De Hallin



○研稿パルカン

(ソガンダム)の弱感には、固定式表が内蔵されている。 RAV-78/ガンダム以来、聴球連邦軍の外部は伝統的にこの 類原販定式製のイアウトを表明することが参かったが、(V ガンダム)の場合は、必要最小項の機能で満たされたコア-ファイターに応候を搭載したい景刻もあって、引に挙がれている。

数十年前のMSより小型化した〈Vガンダム〉では、当時 多く搭載されていた60mm/バルカンは大型に選ぎ、搭載に 不適であることは誰の目にも明らかであった。そこで採用さ れたのかリボルバーカノンである。

いがルケーカンは機能に戻えば時末が最大が栽培の ようなもので、後年かけ行用する機能との特別機 が高く、パルカンのような既存が開新する情景限よりも五 3.上がのサヤい利点がある。ごちにが無軽度で満分さっ、 メアナナスをはから物能から知るから、その上でテ リスコープ等 (学科を構成の延まで飲み込んが等。。 他 が満まいる生きだってであった。 その とで見りませない。 また、単年にソスポータのアニリーには入ら払いが、 あた。 また、ビスリスポータのアニリーには入ら払いが、 のファチャは推り開いたりている。

前述の通り、特に小型化に注意が払われた設計であり、 域力や接弾数の兼ね合いから口径も25mmとされた。作 動方式はモーター作動式とし、撃発不良が発生した場合で も安定に対象を可能としている。また、景神物のガスを後期はスリットから逃かずことにより反動を軽減、息中職歴を 係なわないよう起連されている。後身は小型化に合わせ短く切り詰められ、同クラスの側面隔と比べて針階は短くなっているが、近後地間に使用されることが多い性質上、特に関連となったまかかったまった。

最新選定部等1,000-1,700展程度と80mのに ルカンより性く、発酵質は1円あたり250党と少ないが (60mm/Upu-24500党)、セジサーゼレーダーと開催 に活動したFCDにより配い途中半を誇り、この大の意力化-レアしたも、発見、高速、実践が中でも受けれたゼシュー が認定した効果等原をモジュールとと意味可能であり、メ サナナンス性との展析をモジュールととない。 世界の多いガラニリティアの課業はからおすがたった。 センステムとはの条件がも取りが、従来の外部がなから、 生まなの場合は1とないため、影響の連携が行った。 さき、近く最初の条件があり、 できたの場合は12とないため、影響の連携が行った。 できたの場合は12とないため、影響の連携が行った。 できたの場合は12とないため、影響の連携が行った。 できたの場合は12とないため、影響の連携が行った。

使用添属である2日mm等は前途のテレスコープ等で前 接接が原く、ケースレスで空蒸を時間よびれいたのその カスペースが信候でき、経等級の向上に大きて異軟してい る。発射薬はセンサー類の原中する傾倒に採填されるため 原態の低い火薬が使用され、安全性が高く暴見時の被害を 最少限にしている。

Δ



「(ヘキサ)御練 別職タイプ 技術製といわれる情報、実験社会も認め改算では「Vがソ よいとの概念主義をいめたが中央のタイプではなく対象が の定義基を発化していた。そのため、単独にが確かられて いる。無効のアンテナフェアリングは(ヘキサ)タイプに無 本人生命もカウェアである。



□ (ヘキザ)酸解 ボールアンテアティブ アンテナフェアリンクがなく、左側部からボールタイプの直 医用アンテナが何びているタイフ。中間側に関えてがカンタ かと用ライブのバルカンを整備したのが解析が多くなっ ル(ボル・マルー・ディーをある)

等期は解析から結構作するの的と、電気を火化を収 利力している。発性は対似る、低空機中の衛甲線外のほか、 利力機、センデー機用の破壊なども指摘されているが、 基別を利用の場合と、衛甲線が上来外の場合されて 一般である。機能が200条件で、実施の関心されば このパターン指定であったと考えられる。また、パイロか によってなたかの機能を見れるが特を搭載し状況に応じて にはいける者といたまだ。

成力に関してはコ**クビ**ットなど後甲の厚い部分の實像は難 しいものの、開節や頭部など構造上弱い部分を吹き飛ばす には充分な成力を持つ。領部の実施・設測装置とFCSとの 連携により、バイロットの操作を介さず自動で機体周辺のデ プリを排除するモードもある。

ノジルカン (25mmリボルバーカン)は (ヴィクトリー)タ イプへの)機能を制能に開発が進められていたが、発感には ヤシモド風の、(ソナンが人)が思り着いが自然を主かの情な、 の)連載が続い合わず、代わりに制空機道鉱用25mmがトリ ング級の機能を切り詰めたものを搭載した。発き返録は 対3,860~4,200党とブリルクの3常以上であるが、短 液像付による最近側の能化とト門あたかの姿形象(1809)。

DENGILS



「(ヘヤリ្) 課職 機能タイプ 扱物の一部の主意がに残られる課題。 / (しんガンがたりむにせ かけ - 不早難せしているとかられ、治常の必要性が変すした ことから物理制度の第二部や電がれている。 マスクリのたー ダーが含まされ、アンデナンスにおける機能が変がが発見され たことから、今後は「分替・プリグラインなどが、



□ (ヘキサ) 類似 V学アンタナタイプ 反対の類似としての分割を指引された (ヴィクトリー)タイプであるが、振のVマアンタナを育す金銭は自動社に少な い、(ヘキサ)ロールアウル寺、ごく一郎に近刻V学の背景 会のアングナス万名神の景料を与ったとされる。

に対しての弾薬消費量の多さから、パイロットの評価は汚し くなかったようだ。パルカンの生産が軌道に乗った後は順 次換姿され、ザンスカール戦争中盤頃には全機がパルカン 搭載型になったといわれている。

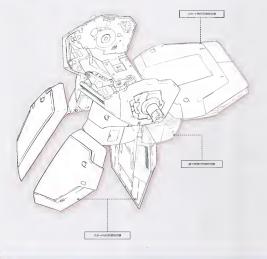
CW

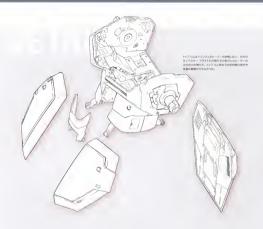
⟨Vガンダム⟩の筒には広い捜査和理を得るために必要な 広い可勢和理と、CIWSタレットとして必要なゆっくりとした 動きから異早い動きを再立する繊細さを兼ね備えた可動 ユニットが搭載されている。マグネットコーティングされた フィールドモーターにより構造されているこのユニットは身 砂質80度の原理器や再発とした。可能需要は左右380度。 印角プロ底・労用の回産やランにか、耐能を380度を設定した させることによる便食モードウル原ではているものの、MS HS際間に対いて対象を向け上のプロが対象が表しないでは、 よる行動の解析や、メインカメラを必要としない情報を展 方が関係をコメーファイター時においても空気振動が増大す るためを別れてけることはかったにない。また、関係を密制整 設定する事態の別様だからパイワントや原発士たちの順では ワーモー・カップ (チェルを行れて)と

Maritime and other

BODY

田公介が取る大田





上半身 (トップ・リム) の構造

トップリムは 〈Vガンダム〉の上半身として認識されるが、 胸部の中央と頭部はコア・ファイターに含まれており、これを 包み込む外段構造に複節、および要部の一部が付属したも のがその主体である。

胸部例面はほとんど/マネルといってもいい板状の構造で、 即の 新高級節時度を中や内側に張り出す形で70倍する。 主 関連が10億んだコア・ファイターとドッキングすることによって 構造体は三重化 (それぞれも) 状ではなく複合的な構造を持 つ)するため、原節を支える時性は万分に確保できる。

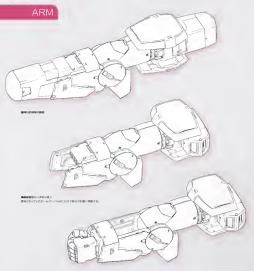
メインジェネレーターを備えた出力の高いミノフスキー・フ

ライトコニットを与じていないため、飛行権力は検定的であった。トップ・リム単体では、コア・ファイターと合作しMS 形成となるために実施を強へ合連することを等うじて果たせるだけの行動力が与えたられているに適ぎない。コア・ファイ ラービン・キングした状態(トップ・ファイター)となった状態で 初かと行動事性を大幅に広びる。

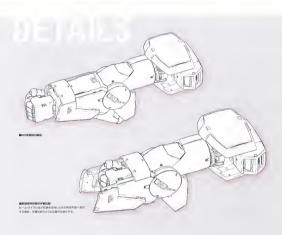
各モジュールの合体が可能な状態になり、ドッキング・シー クエンズに入ると、ミノフスキーフライトの緊急出力が必要 な場合が生じる。その際は脳から下の側面部分にある大管 響のエネルギーCAPの電力を使用してミノフスキーフライトを駆射する。

肩部は前後の装甲に輝られる形で比較的大出力のミノフ

VIATION'S GUNDAMA



■発展変化シークエンス F 下発電に収算されていた子並が終力に移動 コンテナは空いた交易へと 入り込みつつ、計力が一と一体化する。



スキー・フライトのユニットが配置される。この部分の推力で トップ・リムおよびトップ・ファイターは原行する。ただし、コ ア・ファイター本体やがトム・リムに搭載されているジェネレー ターほどの出力はないため、トップ・リム単体での飛行能力 は決して高いとはいえない。

前廃総各所のミノフスキー・フライト・ノスルは両部のジェネレーターからエネルギーを供給するが、最大出力での常時作動はコア・ファイターとドッキングした状態でなければ不可能だった。

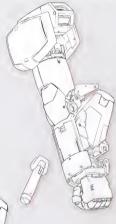
腕部はMS本来の概念がそうであるように、AMBAC肢の

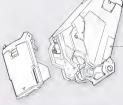
MODELLA CHARLANA

また。射線の雨サイドにハードポイントが駆けられているた の、タブション変換を装飾した状態で振行するだとも可能だ。 上部級と下層線は左右線でイーサルボのため時間で 人一ドポイントが設置されているが、内側に位置した感位は 使用される機位が少なく、ゲニーあるいは不具合を使じて 登録中のユニーゲントが減るなっていたようだ。

一見して下半角に含まれそうなプロントおよびリア・スカートアーマーはトップリム側にが備する。これは飛行姿勢が勝 の概即のためにスカート内のミノフスキーフライトを利用するための回路であった。これもかり、はっさりとした理様は対 らない。分散された生産拠点のそれぞれにおいて、トップ リムと所とよりよって正確数を平均化するためであるなど様々 以近かれる。

胸部への接続部分から上部へ胸部ごと跳ね上げることが でき、その上で胸部を後方に回転させると、左右幅と前後 幅を縮小して開戦に適した形態となる。この形態はデプロイ メントモード(諸級形象)と呼ばれた。

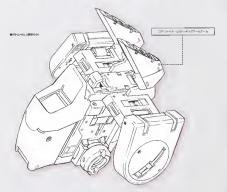




第ピーム・サーベル・コンテナ 飛行生物で大切物量となるだった。サーベルのコンテナは、別談解状態のパネルや物 くだとで作用に関係されたビーム・サーベルを取り出せる。コンテナ党機能など一ム・ サーベルのコイールト党を取る申削してビーム・シールが支援機可能 後に採用用の フーベルト党を記録業に応。



VICTORY CHRIDAY

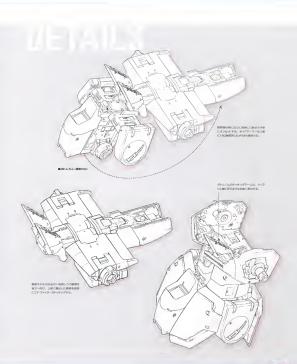


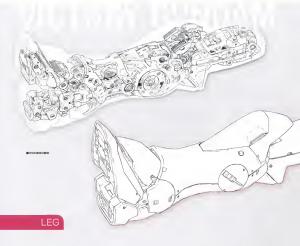
下半身 (ポトム・リム)の構造

ボトムリムは〈Vガンダム〉の下半身を主体とするモジュールである。 腰部の関節構造はほぼ可変フレームのみで構成 されており、これにフロントアーマーとサイドスカート、そして脚部が連続されている。

MSとしての《Vガンダム》へ合体する際、コア・ファイター とはトップリルを介して選集されるのではなく、両者と構造 材を直接達性する。構造的な洗痰の結婚もあるが、エネル ギー伝達複雑と情報送受信系統を複数度保する意味合いも ある。 股関節はボトム・リム時には左右へ展開して両期間の間隔 を広げている。これは、ボトム・ファイター時にコア・ファイ ターのエンジンプロック推力も制部に思影響がない形で利 用するかかだ。

左右スカートはほぼ恥酔にハードボイン小で、裸造強化部 分でもあることから後甲板も飛れる。ただし、ボトムリムの 熱行形態的には機体下部に付され、両大腿部と中央腰部に 挟まれる状態となるため、腰下できるオプションの幅は制限 される。

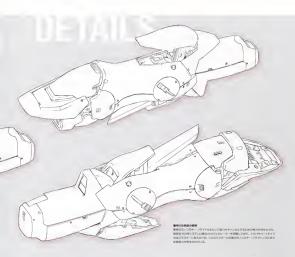




大趣館は上旬、そしてヒザ島の突出したカウルがミスノスキーフライトユニットを内容する。上級のノスリは利の第 で自宅商が同じたの場合ではか、上さんが木かしくお木 リボトムファイター時のカウンターパーニアスラスターとし で無対する。ヒザ泉は上部にノスル側が向いてきか、1459年 の実験時間機能して対する。大型前はサンセストーター と内域し、貨幣の電力を構物する。至いている音楽は気な 新タンクセエネルギーCAPで占められており、ボトルリム 新ダンクセエネルギーCAPで占められており、ボトルリム

下腿部の内、膝頭もミノフスキー・フライトを内蔵し、左

他のブリット状のノズルからミノフスキー場子を開きする。 下部間は結婚さなカールに相談が取り付けられているし けではなく、可能フレームを円台する構造で、外刺フレー ムの治療を見明して態度が見難のレードボイントを設けてい る。ただしくがプメリムの構造、解析のの場所と、オブショ ンを接着することで可能が制度されるため、使用機会が少 ないと考えられたためである。MGの関係や開始されるでは、 透のパーツを受用することが、バーツ増載上も差異した。 透りかなくの機能であるが、それの下数回のとおります。



けは形状の異なるものが採用されている。もっとも、フレー ムは左右で共通であり、ハードボイント増設用の認みも両側 に設けられていた。内側に来る部分はサブ・ジェネレーター 用の予備反応期タンク、もしくはエネルギーCAPを入れる ことが多い。

紙懸の後網にも左右で一列すつのミノフスキー フライト を内蔵する。通常、MSRをでは特約されており、ボトム・ リムおよびボトム・ファイラー所に単語 変定 板とともにせり 上がって露出する。垂直変定 板は表面に電常を発生させる ことでミノフスキー 報子の演送を仮右面でコントロールレ、 ヨー方向の機体姿勢制御に用いる。MS時にも機動方向など によって必要に応じ展開された。後にこのカバー下部にも左 右で一対すつ低出力のスラスターが追加された。

コア・ファイターとドッキングした形態であるボトム・ファイ ターでは、展開した同様のヒザ、振祥、さらに足譲のノズ ルが前方推進力を発生する。

スネ制圏下端はパネルとして分割されており、左右とも 20歳程度開く。パネル外側は低出力ではあるがスラスター ノズルがあり、姿勢制御に利用される。後にミノフスキー・ フライト・ユニットも造組された。前頭のアンクルガードは足

A LONG THE REST OF THE PARTY.





首側に支点を持ち、飛行形態への変形時に大きく露出する 足筒内閣節権法を妨害する。

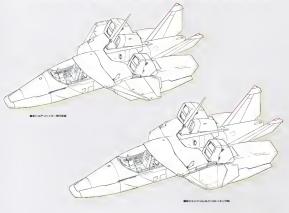
定額の構造において特事で不包は、中日の定ま式の基盤 システムを関ルたことはよるコンパクト化であろう。 他上で 使用される場合にはノズルへの上砂深入や付着といった不 節点があったが、ミノフスキーフライトンズルはパネルでで あり、かつ小型のため、しわゆるノズル収積がが見られな い、MSGはかが心質料量となっていること、定面が膨上大分で で開始すば無システムをが属しなくても示してとか。必要 以上に大さく作るを受かない、実験を申し上た。

カカト他面単甲級にもスラスターノズルが存在する。 従 来のMらでスキ下端のフレアPICスラスターノズルを配置す るタイプが見られたが、精材力的は下方であった。この単析 に、直後ろへスラスターを設けた例は少なく、(Vガンダム) の機能付けに変化を生じ効果があったようだ。この形成にも 機能にエクスキーフライトユニットが場合されている。

ンール部が出まったCの前末科というたけではないが、を 品にエクストマールので簡素を持つこうアルクを燃送れている。エラストマーはど専有しないが、前側に整備を が減く、前別性も極える。この時代の場合によると同様でしている時代をある。 ではかかる運用するとなり手が減した日本、までの中間の第 ではかかる運用するとなり予解の自してしまりない情報で あることが飲められる、それやリフェンでしる。 リナモリ ティアでは英国人に近い立場の機成性といる上に、掲載で のものかほうの形でにあることも一様して、複雑の (アリン エンムの場合の機能によったのものかになった。

⟨Vガンダム⟩のボトムリムは従来MS以上に推力発生ボイントが多い。その制にはコンパクトで整理であるために、全体として発動性を高めるのに貢献している。これまで以上に、スラスターを任意の信置や角膜に振り向けるための可製配としての役割が大きくなっているといえる。

FARSI-UHASA (UN

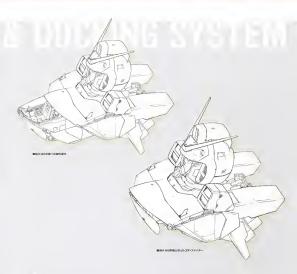


コア・ファイターの変形システム

コア・ファイターの変形システムは、MS形態の上半身(頭感 何部)ユニットへ の変形は3名んのこと、これを忍用してトップ・リムやボトム・リムのほか、オプ ションユニットへの接続時に適した形態へと部分的に形状を変化させることも 速度にて設計されている。

ただし、ボトム・リムとの合体時には変形の必要はなく、腰部の底部にそのまま接続される。

トップ・リムとの合体では、MS形態へのドッキング時と同様にトップ・リム側の

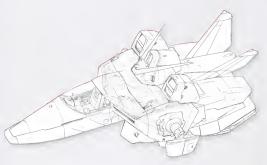


胸部側面外板内へと収納されるため、主翼が折り畳まれる (図1から図2へ)。合体するとトップ・ファイターと呼ばれる 形態となる。

トップフィターからMS形態への変形は、一般分配して 窓用しなおするどの選程を経なくても可能で、コア・ファイ ターが単数でナップしなおよびがムリルとドシャングする際 と供格に、機器を結解する。同時にMS譲跡が上方へとせり 出し、コクビットプロッグが機体中央類体へと当「60法まれた 上で機能に下方に折り要まれる(803)、その際、機関内に 収められていた胸部前面被甲が振開される。エンジンブロッ クは下銅フェアリングが展開し、内部のスラスターノズルが 約45~50°下向きに角度を変える。

最終的に航空機からのけ難れた影像へと変形を完了した 個4つア・ファイターであるが、空中でもミノフスキー・フ ライトによって他の姿勢を停ったすま、ある他庭の機能が可 能である。リモートで南辺へ誘導しておいたトップ・リムとボ トム・リムと、屋終シャキングシークエンスに入る、気象の 乗込よび自総のグ目フェケー・ロースンスに入る。 東美とは了自総のグ目フェケー・ロース・アイトの 東美とは了自総のグ目フェケー・ロース・アイトの ・フィース・アイトの ・

THE RESIDENCE AND LODGE



■コア・ファイターとトップリムの合体示句であるトップ ファイター(指では目がを活動)

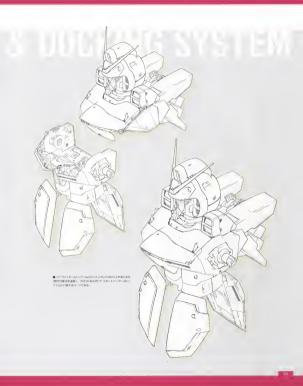
上半身のドッキングシステム

コアファイターとトップリムは合体してトップ・ファイターとなる。この時、コア・ファイター側はMS形態へと変形ドッキングするシステムの一部を実行してトップリムと結合する。

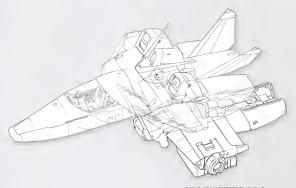
関体的には、主貫を折り要んでトップ・リム側の中央部分、 上半身の格納価体へと固定される。コア・ファイターのエン ジンブロックはそのまま簡体の後ろ側に突き出し、メインス ラスターとして飛行時に使用される。

MS形態への変形は例部、腰部スカートが変形する。 専門土を乗ねるように後部へ同されていたスカートは、フロ ント・スカートアーマーは脇下部のブロックとともに回転して 前位置へ、リア・スカートアーマーも定位置へ移動し、中央 部のミノフスキー・フライト・ノズルのカバーが開く。

無額は上級のミノフスキーフライトンズ以が削減アー マーと自かさって関係となり、下側部の内部へ吸向されて いた平角が当時しくがに応じれる。トライナルで支援の機 高のようにもっていたビームサーベルのコンテナは耐トと 素解する。Cのコンチナはドレール・サーベルのコンテナは耐トと ため、MSF形ではことからピームシールや変属する。こ れを考慮、ドウコンテナ部はや外側にオフセットされて いる。



BARSON AND UN

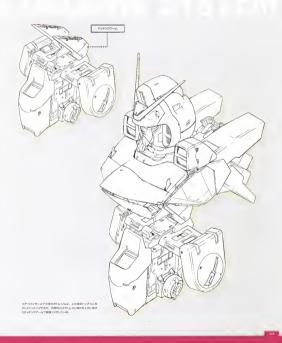


コア・ファイターとボトムリムの合体形態であるがトム・ファイター (終 では縁節を答案)の内容が残器、MEREにも使用されるボトムリム側の ドッキングアームによって強調に口い力される。

下半身のドッキングシステム

コアファイターとボトムリムは合体してボトムファイターとなる。この時、コ ア・ファイター側は飛行形態を探った状態でボトム・リムと結合できる。ただし、 MS形態に変形する側には、いったんコア・ファイターはボトムリムとのドッキン グを検索する必要がある。

MS形態への変形は、ボトム・リムの中央股関節プロックを180 展開させ、 同時に期節を90下方へ下ろす(その際、振鹿のノズルを精卵、足管を通常 位置へ戻す)。左右へ分かれていた股関節を中央で始合し、フロンドアーマー を正し着へ戻すことでロック、サイドアーマーを解離すれば条件は表でする。



WEAPONS

武装

収を燃水回、作権内所に対してザブルンや総条の開催 パターを変化させることで個立い技術設合性を開催した うとしていたが、(ソガンダム)は機体をものものの構造にモ ジュールの概念を導入したこと。「マルテブルMS]返ろう とした。リガーリアイは、(ソガンダム)に対し所用に扱の対 他、少なくとも回路には気がに考えることができなりった。 (ヘキサ)の実性影響の頃になってようやく、ビームカノン ヤゼロ・BEDSA (マーバー・レグ)バック)といった機関処 変数が対象性があるたなことのこのである。

それまでは、例えばビーム・ライフルなどはほかの従来機

かの別面である。その認か、必要を主サイルが小すなとし したご気後も(ゲンダル等間に用きされたものではなかっ たかごな(他)・縦で制度のディスポー・ブブルノ(欠や砂波か・ リングガンなどを削り上が削りかったようである)。これら の製造をから得られて変わりが、上継を呼びることが できたのはそもぞも(ゲンダム)というシステムが、 個物を 辿って限えいるもピラー・川の次門かと悩みを削少として設計 されていたから出る呼びるもい。

ここでは、代表的な〈Vガンダム〉の武装やオプション兵装 を紹介する。



■ビーム・ライフル

(ヴェクトリー)タイプは、(ガンイージ)と共通のビーム ライフルを利用した。 小型のビームが力を輸出して、出力増加しかし、マルチサイト、エネルギー ユニットを機関することで、ビーム・ライフルとして連用できる一種のシステム ウェボンである。



■ビーム・サーベル

近接格剛用記後。両肘部に2本すつ収納されている。ビーム・サーベル本果の 武装としての用途のほか、内臓のフィールド発生器をビーム・シールドの展開 に転用できたくビーム・シールドについては別項で詳述)。



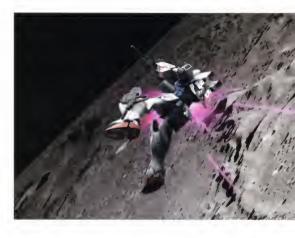
■ビーム・カノン

ハードポイントに結婚されるオプションのビーム兵器。(Vガンダム)のルーツ ともいえる (ガンダムF91)が使用した「ヴェスバー (Variable Speed Beam Rifle)」と同系統の武波である。使用時には基部が展開し、MSのマニピュレー ターによって原準をコントロールされる。〈ヘキサ〉と同時期に実践配儀された。



■ビーム・スマートガン

高出力型のピーム兵長。本来は〈Vガンダム〉専用の兵後ではなく、U.C.0120 年代から始まる「コスモ・バビロニア建国戦争」期の遺物を流用したものである。 パレルを展開式として粒子加速を行う構造で、砲身規模の割に重量は軽い。主 としてコア・ブースターおよび (Vダッシュ・ガンダム) (いずれも後述)で用いら れた。砲身を展開しない状態でも発射は可能だが、加速と集束が不充分であ るため成力は低下する。



■ビーム・シールド

ザンスカール総条時代のMSには、勢力にかかわらず多く の機体でニームシールドが最近されていた。特殊は線を巻 接き自制に認り付いることも同様であるが、他帯は上側に 専用のビーム発生器が揺載される。同時への搭載も可能で にあるが、ジェネレーター出力の関係で同時に作動させるこ とは難いかっよう。

ビームシールトの利点は、軽量とはいえ高級るシールト を常誇携行しなくて済むこと、また際の自由な動きを修理 的なシールドほどは担害しないことなどが挙げられる。

〈Vガンダム〉系列機は、左右の腕部にそれぞれビーム シールトを装備する。これは従来の小型MSにはない特徴 て、瞬期的ではあったが左右のビームシールドを同時に展 開することも可能であった。

本東で多円は、MSの機体からのエネルギー中間では同時 原間は難した、別差エネルギーにAPPの必要である。(VD) なり、では、口を単位の動能にユジラナド回路をおどーム・ サーベルの柄を利用することで代用とした、ビーム サーベ ルビビームシールドロブーに対象側形してシアスキーや の影響を持つるでは多様のに対象である。12・カリーへル のビーム発生業務がを90億分前に関わった。 ルギーCAPに基本られたエネルギーを使ってレフールドを 現る、そのものからをでは関わることに対してビーム・



−ルドを貸に扱い六角形状に展開する。

油を製物に近4分割的度であったとすである。 港市の場合 を行れを超える技術機の関係を行うことは何え、実用上は 同様はかったようなため、また、トップに人の所汁剤を整定 時は対象のンテブナが前が、四人ため、例けずにも関連制 にはにイル・ルール機能できた。のため、上ールサーベ ルをマニビュレーターで得料しなが合業能を行っている場合 でも、発剤がビールナーペルカリ母をトームシールドへ切 の様えて物味に使用ることが同じた。

システム的にも、損耗や不満時にもピーム サーベルを交換すればよく、予備が用意されていれば次回散解除までに

機能を確実に回復できるなど利点は多い。

欠点としては、ビーム サーベルの機能を採用しているため、このや窓上とを開する場所をよりのピームシートが開催できないことである。そのため、2本を収削していたビームサールルを収削しているの来削速のために1本を 利して産法、ビルスペースによりが一人ルルターは変します。 の最適能力を持った場所がごというによりである。 たいました 10秒を第1なのでは、10秒を表表を表のでは、10秒を表の





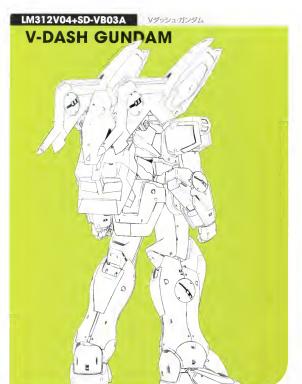
■Vダッショ・ガンダム

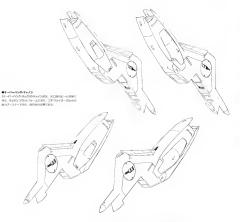
※D-VBCDAは、VYプンダムの発面にハクバ・ツのよう に育良わら形になる。SD-VBO3Aは核点と、中央のコア フィターとの始終解説はブースクーユニット、そして廃 館のオード・バングキャノルに分かれるが、合体的にオー ペーパングキャノルに分かれるが、合体的にオー アファイターとのからギングは振りそうでまままた。フ アンスイターとのからギングは振りそうでまままた。フ アンスイターとのからギングは振りそうでまままた。フ アンスイターとのからギングは振りまった。マ PTFTAS.

オーハーハングキャンが相談は、エネルキー・発生薬である あとプフスキーも子発生音を内能するかいたそ外部に選出さ せてビームを使送、および参与制制を物用のシンフスキーフ ライトノスルとしても最幸する設計となっている。オーバー ハングキャンが起発はロア・川い発生落となっており、コア ブースター前にはコア ファイター前で一次加速されたモンフ スキーも子等単加速のからい。効果することで世界基準とい て機能する。オーバーハングキャノンを試象として使用する 第には、ボットを抽事チャンパー・内へ精解し、ミノフスキー 和子発生薬で生み出した粒子をDマイールやによって圧縮。箱 建させた上で収束し依出する(ビーム ライフルなども同様の 技術を使用している)。

下部プースターユニットにもレードポイントが収置されて いる。ハードポイントには当路オブショグ兵後の固定用ラッ テアコントロール用リグットはどを内容するため、傷害弾化 とともに一定の作儀を占有する必要があるが、ブースター コニット等値所にその影像を生か出せたのはミノフスキー フライヤのシステムがエノバントの

SD-VB03Aの背面上部にある白いかりルで覆われたユニットにもミノフスキー フライトが内蔵されている。この部分の推力は姿勢刺類、機動の補助のほか、オーバーハングキャノン発刺的の反動制度などに使用される。





■SO-VBO3A (オーバーハング・バック)

新潟高級の仲馬と火力の増強を目的として開発された。《ダイクトリー〉タイプは1のカバートデアはイス・MS形態制に育恵に接着するもので、担出力のサブジェネレーターと補助ブースターに加え、「オーバーハングキャノン」と呼ばれる大口径のヴェスバー(※)を2門、ガバリング砲を2門。それぞれ備えてしる。

このアドイスをLMS1とVOのビゲットリートに実施した状態を、ベザタッシュ あるいは、ベゲッシュアンダム)と呼称するが、MS形態時だけでは、スアーファ イターにドゥキングさせることも可能であった。この休憩は、俗に、CIア・ブー スター)と呼ばれる。また、トゥブリムを加えたトップ・ファイター状態に、SD・VBO3Aをジャキングさせることも可能であるなど、、ビナクトリー)タイプの素 牧びを示すが見たして思りる場合も多く

ちなみに、オーバーハング・キャノンは、それぞれ個別に切り難して手持ち 式兵隊としても運用できるほか、〈ガン・イージ〉タイプにデバイス全体を保持 させることで射撃を実行することもできたという。

等ヴェスバーIV G B R Iとは、可家園ビーム ライフル (Versinks Speed Boson Relia (MBRで以びの) 年代に実用化したビーム兵器の一棒である。司電和学 の附近機能、みたび収率半日位に、延等なることが可能 で、裏書が出りにした場合がから、後度がに設すたと述 演、現実事を設めた影響が近く、さまざまな情報のビーム学を参与が下むのの外部に立てれる。

V-DASI UND

■〈Vダッシュ・ガンダム〉

この機体は軌道上で目撃情報の 詳細は不明だが、〈Vガンダム〉そ のものは月面の工場で生産された ものであろうと推定される。



CORE BOOSTER

(スペック) 全長86m ジェネレーター扱力4.780km スラスター推力7.380kg×2 起源 JSLカン田×2

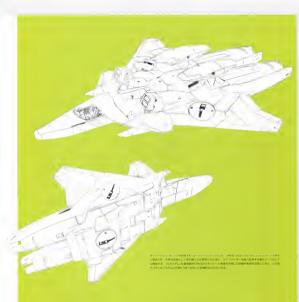


■コア・ブースター

コア・ファイターとSD・VBO3A 〈オーバーハング・バック〉 の合体した形態を〈コア・ブースター〉と呼称する。

SD-VBO3Aはコア・ファイターが加力として簡単するプラ ズヤ化したミノフスキー指子の一部を機体下面に流し、下 部のプースターユニットに強ひ込んで用放返する機能を存職 しており、本来プースターユニットが持っている能力を増強 できる。コア・ファイター側のはかの三・ノフスキー・フライトノ ズルの能力能機体のコール/ビッチ/ヨーそれぞれのコント ロールに使用される。また、SD-VBO3Aは空力的に影響の 高い主責を有しており、合体的はコア・ファイター特有の機 動性服が担られなくなる代わりに航空機としての順力は高め られている。 質面から充分な悪力が得られるため、推力エ ネルギーを繋体を浮遊させるために使わなくてもよく、速度 と始後が駆けを確か。

主質外質は内相と外部に分かれた動質があり、外側はエ ルロン、内側はフラッペロンとして機能する。外質前縁は内 質との境界部分でドッグトゥース(切り欠き)を形成し、消流 を発生させることで上海気道が襲撃へと遅れることを助き、



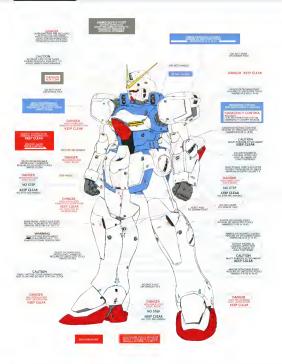
男力用止に収立てている。

外側には存在しないが、内製の上下面にパードボイントが 流力られており、各種オプションの武装を搭載しても飛行能 カに充分な金力がある。

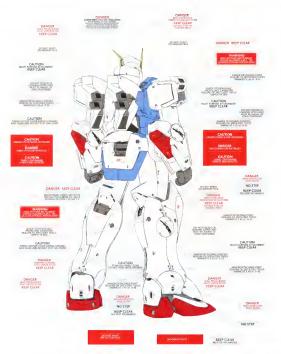
〈コアプースター〉への合体時、コアファイターの主賛 は補助的に先尾翼として使われる。〈コアプースター)は航 空機能の分類上はクロースカップルドデルタ翼であるが、 ナードはほとんど可動しない」(合体詞の配置的に動賞もはほ 動かはない)ため、機動と与える効果はおばないが、逆に飛 もかなない」ため、機動と与える効果はおばないが、逆に飛

行安定の邪魔にもならない。

本年現実は必要無限算はない。SD VBO3Aの本な上 窓に突出したボル・部に内蔵されたエノフスキー和子発生 窓はエノフスキー・コンパト・生命点でおり、後継を急 窓が出力がを発生し、無体の参考等を確認する。ボルヤは MR市部の のけかびんの合件は、オーバーレングキャン 小他場内に付き込まれてその意まとフフスキー和子のが結選 となる。フースターユーットおよびオーバールングキャンソ への動力的には、毎月のウプシスキンの一人におよて行う。



CAUTION SIGN





■ (Vガンダム) トレーナー 誘導転換剤に用意された訓練用解体、ハイロットはもちろん。質問を控急するその影響に使用された た 被差タイプにのペーンも影響表で この必要のものが存在した。

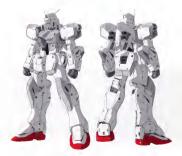


■ (ソガンダム) 環象パターン1 (ソガンダム) はへ及いたかが確認に対し、当めて効果のための物にゆ行った。製成効果が軽に従業する単など、このはおパケーンがあされていた制度もおったようだ。

COLOR VARIATIONS

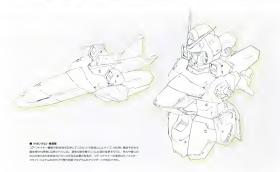


(マガンタム) 原型パターン型 必然パターンのパリエーション 特定の信号のカラーリングというわけではないが 低途共振などの付着 に参加した場所を採用していたとれるよのパターン。



■ (Vガンタム) ロールアウト部 ロールアウトしたしきぐな呼吸に扱うれた。回ば速度を考えられる状態の (Vガンダム)。 各種の資金数 秋とよって色を軽性などを開なっている。

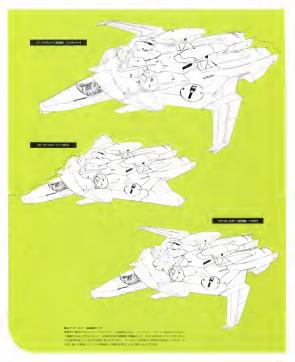
Vガンダム カラーバリエーション





■ (ヘキサ) V字アンテナタイプ *ガンタム*主意哲学の研究のひとつでおるV字アンテナを展像した(ヘキサ)。

V GUNDAM VARIATIONS



GUN EZ









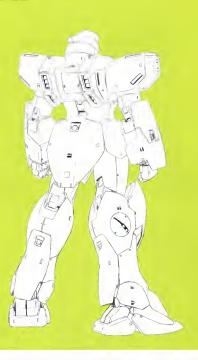
■LM111E02(ガン・イージ)

い作組だおいては、場合で単純の設能かか、ルタブルAAS 機能の実践か大目的として掲げられていたか、それでも複 接触の実践か大量機能の導入と担談後であるこプス・ キーフライトンスティの実践には、開放機能の表別能や数 部コストの電大なといくつかの無念からこれでいた。そこ で、リガーリティアの工量部がいが無を進める上で、リスク マネジメイトの様がから変形と対機を構なオミノトに増生を 子打して開発、生きなというが生物をごととしていかく でもか出されたのかしM111EO2 パブィーンである。

型式番号の3桁の数字か モシュール数 ジェネレーター 数 メインスラスター システム数]を示すことは前述した通 のだめ、ガン・ の場所、労働機関を持たない1モジドー機、シェネレーター1高、メインスラスターシステム1高 依となる。ひせに実施に同の1日は (ガンイーン)タイプであ ることを、28日の数字は必要の研究等で表す。ここでは自 したいのは、以びシリステクのの下来機であるようの主義が 「OO!となっている点だ。一説では、同じサナリイ出巻書が 多くを自立る「ベスリカトの情報系式ルを着点」、設計役 都で「EO!ナンリーを登録は、「機能を使用機」とで 「EO!ナンリーとして、流めて計画を再続」とのだという。

ともかく、後のマルチブルMS第一号となるLM312VO4 〈ヴィクトリー〉タイプから枝分かれした本機は、かつての

GUN EZ



RGM指揮機等であり、ITが別のおり業債(あ)など参考としつう、他の とシブルはMSUと対象が始められる。 生産性や回路を表現して、国際無限会種等のに導入したという。 発展などはその分別で、RGM・IT 8(ジェムズがン)にも構造されていた。 経験等の対象がユアントが発明されていた。 ただし、主催はは「ジャント レーシタイプ制力に原発が始められていた。 第25、ペンは「MSP-Oの対象をしていた。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしていた。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしていた。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしていた。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしていた。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしている。 なスペッなが、RGM・IT・Oの対象をしている。 なるといったが、CMM・IT・Oの対象をしている。 のとしてが明れた。 のとしてが明れた。

なおよいは11年202 Cサンイーの大は、生態を削えことで大なく本の女性 が存在している。まず最初で造るれたのが、他に「プロトライナ」と呼ばれる社 様で、センイ・ショセフが場外の工事にてき機の必要過ざれた、設定式能が実 美されていないのか特徴で、このど間を使って各種ライが持つれたという。 れ、即即にていたが窓が作。五四郎に世帯でよりを持ちれたがままかります。 れ、即即にていたが窓が作。五四郎に世帯でよりを手が、一名脚にレールー ルーベルラックがそれをできまれている。これらの機様は、リガミリティア 初の実施設度である「シュラク族」に定論されたが、同時際には作り責他も切 別生を選せばかく必要がまではおり、テストイイワントを制めたシュンフ・ジェン 月本、同様に必要がおけている。一方、他で問題は、そのまず国に関われ、 他の Cサイクトリー ライブ加けの各種共変のテストベッドとして用いられたよう

で必にてい場。リアスカートアーマーの科甲財化を開発した「簡単6ヶイブ」
の生産が開始される、連貫 15年間の関連に上海性のことなる社様変更
が加えられている。これが通算 16号間に別の「使用生産型上呼ばれるグループである。この場には、背景に、原理整立プースターを後側した、LM111Eの3
グルプラスターの生産が開始されている。本地も大きに生主経験的
けに供給が増けられたという。なお、こうした地上を開機の中には、防砂・筋 整を目的にイクデークマスラスターにフィンを追加したり、赤部が多を終める
あの砂窓がJUMに手を加えたりにから中午日によっこかに設備は、そ の間とんとが実際の特別になる。これであり、数式場が必要されると、 はなかったようた。その野野化して、アリカが開助にご確定した「ブルーバード 別の前途間が到けられる。 軒中内なブルーに始め上げられてあらの情味は、 賃料によっては「機能タイプ上で製む上げられてあらかまでは、金砂の様は、 賃料によっては「機能タイプ上で製む上げられてあらかます」

金F8年以下が飛りは可な優 LM11TEOR(ガンイージ)の保守形状は、サナロイ製 のF80IIIYグラスター・ガンダム)のそれに働めて近し い。また内部構造のレイアウトに関しては、F70(キャノ ノガンダム)やF71(GFャノン)といったF7所列便を 参考としたとの登画名お名。

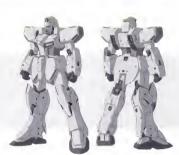


■〈ガン・イージ〉・陸戦用



■〈ガン・イージ〉・塗装パターン(グレー1)

COLOR VARIATIONS



■〈ガン・イージ〉: 塗装パターン (グレー2)



■〈ガン・イージ〉: ロールアウト時

GUN BLASTOR

金乗車目 21 31 銀料目 アンゲリウムを含え、バーセラミング目的 パクスター地ガラ 4 05CM N スタスター地ガラ 4 05CM N スタスター地ガラ 2 1805年7、1 08 05CM P 受電解したフスター機 47名 取りパカンペター ビーム サーベル ご参りカックジャー ヒーム レーバゲ







■EM111E03(ガン・ブラスター)

地上と宇宙の双方に対応する汎用機として設計された LM111E02(ガンイージ)であったが、実戦での運用を 開始すると、機動力の向上を求める声も上がり始めた。かく して開発されたのが、「ツインテール」の俗称でも知られる。 高機動型ブースター ユニットであり、これを背部スラスター に代えて実装した機体を、EM111E03(ガン・プラスター) A-86.75

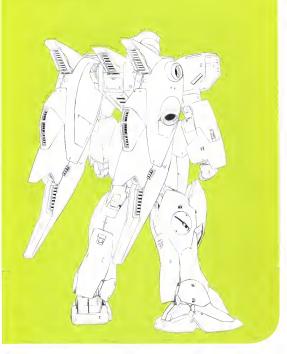
成る極めてシンブルな構造であり、何も目新しいものではな い。 ブースター ユニットを可能式にすることで、AMBAC版と しても利用するという発想は、UC0080年代に登場した「バ インダー におば同じ設計限例であり、枯れた技術の座物とす

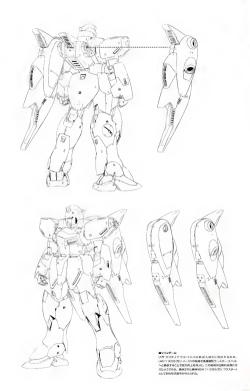
ら言えるたろう。だか、それだけに開発は極めて短期間で終 **了しており、披足通りの効果を発揮した。宇宙空間における** 施推力の向上と、前級影響の伸長という当初の目的を、しっ かりと果たしたのである。

また、本来の用途ではないものの宇宙空間だけでなく、重 力下においてもジャンブカの向上に繋がるとして好評を得て、 UC0153年5月以降に戦緩を問わず、幅広く配備されるこ ととなった。ちなみに、この験体は〈ガンイージ〉の生産ライ ンを転用して同時並行的に製造されたが、ブースター・ユニッ ト単体での生産も行われ、在来機の改修も積極的に行われた という。先にも述べた「シュラク隊」についても、配債権を順 次、EO3仕様へと改修していったことが記憶に残されている。

EM111E03 EM111E03〈ガン・ブラスター〉

GUN BLASTOR







■ポスト・ヴィクトリーの模案

LM312VO4(ヴィウトリー)は、地は海洋解の形式機能上間を寄むに滑なてはあったが、次々と可能を入れる ベス化を観い能力をには、深して管理的なアトルフテーク 分配分とは意えず、いずれさらなる機体の更可が必要にな ることは同日であった。そでで、リガミリティアの上電影は LM312VO4の形弦を持たず、同時に次南フラグシップ機 の機能に指する効果を下している。

これを受け技術者だけは、ポスト・ヴィクトリーの権力を 別数、その際、プロジェクトナールの主要メリバーのひとり で見ずりとは今日間後、ミューラーマリル的実施メステム 展示を選引したことで、万時間が示されていてこととなる。 U.O.013の単代のこと、彼女はオナリッドで、FSB(レコート・ブレイカー)という機体の関係に関わっていた。 (定理機 り」との要称からもつかる他の、この音楽は底による影響は 用を狙ったものではなく、MSによる世界電源記録の要称を 目指した実験をであった、ミグリは、このドラの地域もして いた新機物の推進システム「ミノフスキードライブ」を(フィ クトザー)シダインに実安することで、もう一段上の映象性を 与よまる生き状況をなってとなった。

ミノフスキードライアとは、ヴェスリーの常見達して高められた海衛日子の正意所解除がた。まプスネー・フライト ステルでも開加されるジャー川が実施を命立せることで 生み出された部分反映を展開させることにより、実大な様 成力を得るもので、これを搭載することで参り下飛行はも ろろ。あるもののない単独な関立をおけば解し、表述を

POST VICTORY



まで加速可能とされた。その上、消費エネルギーは低めに 持さえられており、ジェネレーターへの負荷も少ない。まさ しく夢の推進システムと言ったところであろう。

また、エノフスキードライブの影響的には、副権をとしてユーナー内に対してあられなからた参加エスルギーが、常 電板子となって加出口から吹き出す。通常で多れば、環外 契程値のものだが、出力を上げていくとほかの月後から放 出立れるメリルランは様々で「伊の夏」を形成し、長大なピームの少と仕ず。この以表と生まる利用するとかでではは、 MC数の機動具能を掌握することはもちろん。強力なビーなシールとしても原用できるのではなれがた考えられて いた。

本来、宇宙艦艇用に開発されたミノフスキードライブ・ユ

ニットをタウソイソングすることは該策を他のたるプロハ それでもミグルたちサナイの技術者たちは18mWのF97 系プレームに指すニットを実施し、6付3機の実施を認 するまで総長を並びていた。ところが、次世代Mのの部形と して大いに関係されていたF99だったが、サナリイ第二月 回路を実施所での連用デスト中に木井県電車所属のMS部 線の数章を整け、2般が大陸、大石1機をミノフスナードラ イフェールをラル、原数で大陸リ、にはのである。

かくして歴史の朝に消えたミノフスキーボライブ搭載監 MS……これを約20年の時を終て、U.C. 0150年代に月間 させようというのかミゲルの主張であった。ところが、一度 は実用化に収切していた技術ではあっても、その開発は振っ たほどスムーズには速度しまかったようだ





(ログ)アリンとこの機能が、対象化を実施を受けないの場合であった。 機能であるからか、変更機能に要求あったかったがは要がはないが、(ワークリー・ライブの構造が次の 技術へ進む、あたり、表演化とを変えなかり個やにクストでれたものと考えられる。

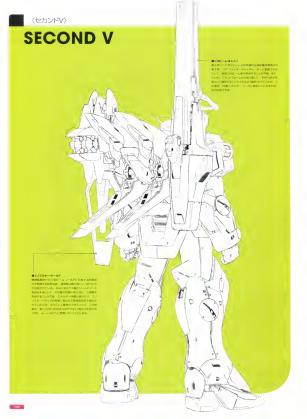
■ 〈セカンドV〉

F89を参考に小型ミノフスキートライブユニットを設計した使らは、(ヴェクトリー・タイプ向けのサポート デハイス規格に削ってこれをバッケージング。機体の背部に背負いいて将をPKのボングさせようとなみた。ただは、改善点はこれ

だけに終わらず、シェネレーター出力の向上、武装の発実 部分的な接甲の強化など多級に及んだ。

しかし、基礎設計が完了し、コンピューターショュレーショ ンを行う規則になって、いくつかの問題が明らかたるる。ま 水とサポート・デバイスの接合部にかかる良荷が思い の外大电いことが判断。ミノフスキードライプの最大出力 時には、最悪の場合、空中分解の危険があると指摘された。

また、余刺電力を活かして右肩にメガビーム・キャノン、左 肩にミノフスキーシールド(メガビーム・シールド)を追加し、 放動原衛を悔化する計画であったが、追加装備をマウントす



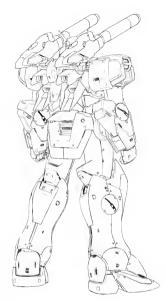


るために強ませたウェポンプラ・トフォームが戦闘機動時に 振動し、長距離料業積度に悪影響を及ぼすことが確認され る。長射程が限りのメガビームキャノンの長所を消しかねな いこの欠陥が、大きな問題とされたことは高うまでもない。

シミュレーションの結果は、いずれも機体アレームの限界 を示していた。そこでLM312VO4(ヴィクトリー)の機能と した開発されていた試管型の機体を説用するなどして複数 のテスト機が作られたようであるが、完全な解決を見なかっ た、つまり、(ヴィクトリー)タイプの説相にごだける限り、根 本称な解放が探しいということである。 しかし、うした速度施設(ロケットリーのイプの意味)と なうというシェネレーターの商出力をフルに使用した場合 に起こり個子機能なケースであった。 赤力を赤力として残し つつ連用する分には前駆は表面化しない、 適用テストを逃し で機を終節にあびな「ジェッター"をかけることで、一切は実 無人いしの機能なびなようである。とはり、この(ヤンフト) トンドしてもと速度期の機体であり、後の(ヤ2カンタム)の 実施能であったという側面が関かった。実現上野は、これた としてもくど見解するからた 4月4日でいる。

CANNON PACK





■SD-BC01 〈キャノン・バック〉

火力の増強と実体習に対する結動力の向上を目的に設計 されたサポートデアイス、MS形態制の背部に、ピームキャ ノン2門を搭載したキャンパックを保備、その上で肩アー マーとスカート部に、複合窓甲を彼せる計画であった。その 開発にあたっては、UC OOBO年代初間に実用にされた中 距離支援用MS、RGM・B3 (ジム・キャノン川)の総計データが 参考にされたようだが、より火力に優れたSD-VB03Aの実 用化に目処か付いたことから、計画はキャンセルされ、実験 が製造されることはなかったようである。

VICTORY TWO GUNDAM





■LM314V21 (ヴィクトリー2)

しい、そのためにはエンノスキー・ドライノエニットのと らなる小型化が必須となる。 開発時は、 専門家を用面に招 集してこの雑類に当たらせる 方で、 同時に素体となる新型 マルチブルMSの雑選を参ぐこととした。

素体の設計を担当した技師によると、彼らはます

LM3 10V10のテータを放松で分析することで、最大実施 例のフレーム角でを検証するところから作業を始めたのだと いう。この時内で下手側によったもの結婚がないことを検証す ると、ひとますボトムリムの設計で削しては、その人が設定 が、パーム・リムの変更では、コアファイター側の飛力向上 を見解して接着を扱うスラスターを削減ル、反応専用のイン デクラリルクンタを入びれたして整備のからとってした。

一方、トップリムはと思えば、あらかしめショルダー・アー マーをウェポン・ブラットフォームとして利用することを念頭 に、肩回りのジョイントを強化。内蔵式ビーム・サーベルラッ

LM314V21 LM314V21(ヴィクトリー2) **VICTORY TWC GUNDAM** 1



クやヒーム - 一の原開機構にそ・ウェクトリー・タイプから引き輝いだものの、変形師に展開金体をスイングさせないようにするなど、いくつかの講覧を加えている。

だが、これらの改良点もコアファイターの変貌がりに比べては、素質の観測やよりまえるだろう。主道を含むして とフスキートライプを採用したこと、大変関の場所においても空気による能力を必要としなくなったため、もともと 小小りであった主義を完全はよるか、ごびに原理とこめか、 一名で人間がらている。これま、メインクラスターが 配置されていた場所には、プレート状のエノフスキードライ ブニントか様式付けられており、単立像というよりはログッ トたなた影響がないないた。を参加さいま。

また部部ユニットにも手が加えられ、長犯階射撃時の命中 精度を改善するためのロングレンシアタブターか能加。さ らに通告保知機能の向上を図るへく、V字アンテナも増設さ れている。 以10×3な販売を低ぎ機能が認定をと、筋界線は まちミノフスキードライブ非路機の試作費を提通。 予地球 遠路線用機のペテランパイロント、ハリンンマティンを倒 いてテストを乗ねることで、機材パランスを入急に確認した という。 を切象、小型ミノフスキードライブの設計図販の対 高を持って、月面のテクネチウム工能にて実験を接触し始め たのである。

がくじてUC O153年半郎に、特定の ヴィかとリーツタイ つ能養施、LM314V21 (ヴェクトリー2) がロールアウト、 少なくともを着のコアファイターが設成し、ほどなく実施 補の窓とだなった。なお、このの1 補ま「シュラウ線」の原発。 メリファーイインによって調修されたが、モトラッキ電客との 交戦がに特定を設計し、未得慮となっている。 残る1機は、 リガミリティアの着きエース、つッシェエヴェンの異様となり、 エンジェル・バイロッを達る姿が物に至るまで、しくつもの意 物を軽い退を、多大な観光を削た。

V2 TOP RIM / V2 TOP FIGHTER



V2 CORE FIGHTER

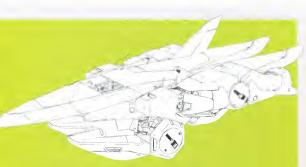


■V2コア・ファイター

LMS14V21(ヴィクトリーマ)の平板を成すり走戦期極、 節値の書の、三ノフスキードライブが構入られているのが最 大の時間である。主翼が排除されているため機体を繰り延く なったが、一方で特定されたノーズと協力に大きく窓の出し たミノフスキードライブコニットの影響で、全長は17m超 となり、頂で運搬している。

また、メインスラスターが明瞭されたことを受けて、スラ スター推力はVO4比で3分の2程度にまで落ち込んでいる が、ミノフスキードライブが存在するため、むしろ映動性は 大嶋に向上している。一説では垂直離陸した直後に急速上 昇し、そのまま田返りを行うことすらできたとも言われてい。 *

ちなみにLMG12VO4(ジイクトリー)とは保証の、東用等 には頻節コニットが完全に収納されるが、任意でこれを確立 させることもできたため、コアフィター用態でも(ヴィクト リー)同様に関語リレカン他を使用できたようだ。この場合、 回閲節も可製するため、認能ユニットを整理的第七して利用 することも可能であったという。



■V2トップ・リム トップ・ファイター

基本的な構成要素は、LM312VO4 ウェクトリールに乗り るが、変形時に展認ユニットをスイングしないように変更さ れている。これは主に、トップファイター形態時の視界を推 保するための処置であったが、ヒーム サーベルやビーム ・ルトを使用するには、一手動略えることになるなど、一 &一斑な仕様と思えた。なお、この変更に伴いビーム・ライ フルなどの手持ち式兵徒は、機体下重に吊り下げる形式に 変更されている。



V2 BOTTOM RIM / V2 BOTTOM FIGHTER

■V2ボトム・リム ボトム・ファイター

腰握ススマソーの排除や反応期用インテゲラルタンフの小型化を除けば、 ホトムリルの性様は、LM312VO4グイクトリー とそれは採取時を占置える。 ららに細かな差異を挙げるとするならば、ソール部分と甲のアーマーの可動 方式が関連され、より滑ら所に収納可能となっている点とらいのものだ。

実用化を急いだだめ、脚部へのビーム シールト実装は見送られており、 VO4で課題とされていたボトム ファイター時の防御性能の低さは、そのまま

(V2ガンダム)の推進装置

V2ガンタム に携載されている推進保護は V 1 → 1 の推進装置とは まったく異なる原理の(ミノフスキードライブ]をメインズ スターとして搭載 している。

ミノフスキートライプはバリス電流とバルス磁場により、通常より100倍 近い密度を持つミノフスキー戦子の立方格子によるフィールトのスフィアを生 成して蒙ちだし、その反義力を推進力とする。

表し、必が小が3 にノノスキートライブはエノフスキーですを実現は そして間域を加速し、打ち出す際の反称を開催力としている。なその加速 達得成分が異なって発質が終ましているです。(ペプリンタ」でも続い フームが実力に乗りなけることができませません。 もる、ユノスキーサンギリエクをは、フィンドでは、マス・アンドでは、アス・アンドのは、 地子をパルス機能と加速させて撃力出すが、毎秒数十から数千機のスフィア がいて大利に乗び出ることがあっていませる。 フィスキートライブの場合、大人変声のカウル大気圏外をの記を性がある。 フィスキートライブの場合、大人変声のカウル大気圏外をの記を性がはくな と、ただし、これはエノスキードライブは多くのテーケであって、他が正常 と、ただし、これはエノスキードライブは多くのテーケであって、他が正常 とした。他のははおも日本のの変変がある。それでも大気 現実での情報があるのがたが、場合があるようだ。それでも大変 現実での情報があるのがたが、場合があるとがた。



V2 BUSTER GUNDAM



■LM314V23(V2バスター)

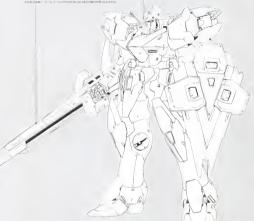
LM314V21(ヴィクトリー2)の背部に、専用のオーバ ハングバックを後薄した重攻撃型仕様。 石原に長組織射撃 用のメガビーム・キャノン、 左肩に近接戦闘用のビーム・スプ レーボッドを備える。また、フロント・スカートアーマーとリア・ スカートアーマー、ごらに製御使用に各2番すつ、計6基の マイクロ・ミサイルボッドを増設。全体的な火力の向上を実 残している。

V2 ASSAULT GUNDAM



■メガビーム・ライフル

等にアウドト在番号の専門表現というわりではないが シー・フェンはV2PA社 毎に比較する時には メガビール・ライフルをサラルでを関している。このままかっ ヒート表生またが、おから、アウドルをサロルを乗者で、連邦もは銀が、ト ポイント・マントルで選出する ・戦略に下込むこののソイイスや1の中のがかだい。 運用する必要があるため、19日間に関するとは第一半・のでがったが、そのか

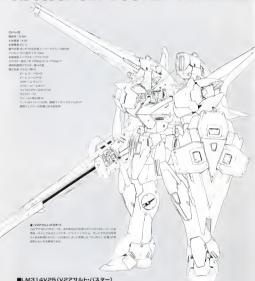


■LM314V24(V2アサルト)

LM314V21 ワッカッリーつの実質 日月秋仕事。火 力の両上に重きを悪いセン23(V2)(スター)に対し、V24 (V2アプルト)は前部方を置視した動を採用。同両に 施、両側に装造された増加トールは、実体弾列等の二次装 甲であると関係に、割ビームコーティングが振されており、 発売を報解ではることでビーム高弾的ロエネルギーを分解 できるように発動されている。また、側加トーツには2年初 フィール・発生器が含まれている上、手持ちまポフィンスを 接として「ケガビーム・ケールル・接着質するのが常とされた。 これは、(セカンペンの解発操度で繋作されていたミノフス キーケールドを発度させたもので、3番のバリアセットを制 出することで回転側にビーム皮膚を落ることができる。こと 助策がい機しては、当時の根準減少性をであったと思える ケスら、



V2 ASSAULT-BUSTER GUNDAM



パーツは、あらかじめ併用可能な設計となっており、その双 方を装着した状態を〈V2アサルト・バスター〉と呼ぶ。実施、 U.C 0153年6月のエンジェル・ハイロッを巡る一連の攻防 戦の鏡中、「ホワイトアーク隊」所属のウッソ エヴィン乗機が この状態で出撃している。

各種オブション兵装と手持ち式武装をフル装備したこと で、当時最高の防御性能と巡洋艦並みの打撃力の両立に成 功。相当に無茶なこの構成が可能となったのは、ミノフス キーボライブが生み出す大推力と、高出力熱核反応炉の思 果以外の何物でもないだろう。







[光の翼]

ミノフスキートライブが実用化される前にも、このミノフ スキー粒子の性質を利用したビーム具器が作られている。(V ガンダム)のオプションパーツとして作られた オーバーバン クハ・ウ)がそれで、コア ファイターに後患すると憎患器と して作動する。機能的にはミノフスキードライブそのものと いってよく、制御システムを書き換え、メガ約子砲としての 圧力に耐えるようミノフスキー帖子の圧質暗選チャンパーの 構造を一部強化してあった。

RESOURCES

■龍川虚至 Kyoshi Takigawa

All Mechanical Hustrations

■大脇千尋 Chihiro Owaki

Text, p 006-021, p 033 p 044-047 p 079-081, p,093 116 p 118, p 121-123

■二宮茂幸 Shigeyuki Ninomiya (NYASA)

Text. p 023-029, p 117, p.119

■大里元 Gen Osato

Caution design & drawing

CG Modeling V GUNDAM, Overhang Pack, Reinforce Jr

■ハギハラシンイチ Shinichi Hagihara (number4 graphice) CG Modeling Finishing Work

O MODBING THISTING WOL

■河津蒸範 Kiyonori Kawatsu (number4 graphics) CG Modeling Finishing Work, UV Mapping & Painting

G Modeling, Beam Rifle

■シラユキー Thillayuki

V2 Core Fighter V2 Top-Rim, V2 Bottom-Rim

■佐藤 始 Hajime Sato

SFX Photo retauch Marking design & painting

■橋村空 Kuu Hashimura (GA Graphic)

Text, p 034-041, p 043, p 057 077, p.084-085 & Captions

■大河内雄太 Yuuta Ohkouchi

Text p042 p048-054





MASTER ARCHIVE MOBILESUIT VICTORY GUNDAM



tan=naccast お川は宝

シラユキー

[コーションマークテザイン] 大里 元

大脑干得

_ 80700 MH 大川内湖太

大型元 ハギハラシンイチ (number4 scraphose) 河津深駅(number4 graphics)

GA Graphic M \$ 55

DOT STREET ハギハラシンイチ(number4 graphics)

28 38 38 thumber 4 practices) 市等等等(Youmberd graphics)

株式会社サンライズ

人类规范

1969-1 佐藤 元 (GA Graphic) 料上元 (GA Graphic)

168/02/1 大宝 元

湖底弘明 (SBCrestive)

正本幹班(SBCreative)

永井 脳 (SBCrestive) 中商和區 (SBCreative)

Expanse or 5 RETURN ON THE PERSON

大野順和 (月271月8日)

■マスターアーカイブ モビルスーツ ヴィクトリーガンダム

2018年4日1日 初新発行 編集 ホビー業単常 製件 GA Graphic

発行人 小川澤 田岡 井立田剛株式会社 発行 SBクリエイティブ株式会社

〒106-0032 東京都港区六本木2-4-5 営業部 TEL 03-5549-1201

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。 定債は、カバーに記載されております。

自動薬 サンライズ ©SB Creative Corp

ISBN 978 4 7973-9370-5 Printed in Japan

本書「マスターアーカイブ モビルスーツ ヴィクトリーガンダム」は「公式収定」で MIXIC、ガンダムシリーズ作品に登場するヴィクトリーガンダムなどについての歴 史的技術研究書であり、作中のエピソード後に「作品世界の中で刊行された自 録」という設定に基づいて収集されています。したがって作中や関連作品などと 度なる原子解釈が含まれる場合がありますがご丁米ください。

